

2015年度 開発教育指導者研修(実践編)受講者

実践報告シート集

区分	No.	名前	対象	時間数	タイトル
小学校	01	高井 菜穂子 <small>G</small>	小学1年生	6時間	みんなの 気もち♡
	02	山田 真沙美 <small>G</small>	小学1年生	9時間	あいてをしくて、かかわって、ころもからだもぼっかぼか
	03	中川 幸	小学4年生/日本語教室	2時間	ほんとはけんかしたくないねん
	04	望月 衛	小学4年生	3時間	えっ、水ってそんなに大事なの？！
	05	駒谷 奈津 <small>E</small>	小学4年生	10時間	わたしにもできた！ボランティア
	06	板倉 めぐみ <small>G</small>	小学5年生	3時間	おむすび健康計画！～世界と日本を結んで考えてみよう
	07	宮嶋 いずみ	小学5年生	5時間	世界の今と私たちにできること
	08	伊藤 樹李 <small>G</small>	小学5年生	6時間	世界はみーんな つながっている
	09	青山 英孝 <small>G</small>	小学5年生	7時間	芯まで丸かじり！ファンティパイナップル今昔物語
	10	大島 風花 <small>E</small>	小学6年生	3時間	しあわせなら手をつなごう
	11	猪飼 美穂子	小学6年生	4時間	あなたは本当に学校に行きたい？
	12	橋本 奈央	小学6年生	8時間	Dear 世界のみなさま
	13	中川 朋子 <small>E</small>	小学6年生	10時間	エルサルバドルを通して考える世界
	14	加藤 未来 <small>G</small>	小学6年生	12時間	夢は無限大！
中学校	15	浅野 順子	中学1年生	1時間	文字が読めないってどういうこと？？？
	16	岩田 恵梨子	中学1年生	2時間	世界の食卓～世界の食の多様性、日本の食の現状を知ろう～
	17	中垣 尚子	中学1年生	2時間	世界に兄弟を見つけよう
	18	野村 佳世 <small>E</small>	中学1年生	4時間	わたしとあなたをつなぐ～エルサルバドル編～
	19	野口 哲平 <small>G</small>	中学1年生	5時間	アフリカの人々の暮らしとその変化
	20	藤井 健太郎 <small>G</small>	中学1年生	7時間	アフリカ州 ―第一次産品にたよる経済とそこからの転換―
	21	高井 季代子 <small>G</small>	中学1年生	9時間	みんなの生き方、わたしの生き方
	22	河村 有紀	中学1年生	18時間	私たちが世界のためにできること
	23	吹田 沙織 <small>E</small>	中学2年生	6時間	“救世主の国”＝エルサルバドルを救うことが日本を救う
	24	林 雄一	中学3年生	1時間	話し合おう、「貧困」のこと。
高等学校	25	岩田 真実	高校1年生	3時間	世界はサラダボウル～みんなちがってみんないい～
	26	鈴木 理恵 <small>E</small>	高校1年生	3時間	エルサルバドルから考える私達の人生に役立てたいこと
	27	寺本 圭衣	高校1年生	5時間	もしも世界が40人の村だったら・・・
	28	長江 孝継	高校1年生	6時間	貧困と教育
	29	市江 文奈	高校1、2年生	3時間	異文化体験から、「食」について考えてみた
	30	樋口 耕平 <small>E</small>	高校2年生	2時間	夢・夢・夢 人生、夢いっぱい！～エルサルバドル人から学ぶ～
	31	榊原 麻起子	高校2年生	3時間	みんなで生きる、みんなの地球！
	32	佐久間 綾花	高校2年生	10時間	突撃！！総探メンバー！！
	33	田中 真弘 <small>E</small>	高校2年生	28時間	エルサルバドルから学ぶ ワーク・ライフ・バランス
	34	高田 信英	高校3年生	4時間	アフリカから考えるグローバル
特別支援	35	山口 貴史 <small>G</small>	特別支援学校小学部5年生	24時間	まーは がーな (こんにちは がーな)
	36	伊藤 篤志 <small>E</small>	特別支援学校子ども・教員・PTA	7時間	「エルサルバドル」ってどんな国
大学・一般等	37	酒井 文子	専門学校生	6時間	1人の日本人としてできること、1人の看護師としてできること
	38	望月 智加	大学1～4年生	1.5時間	自分と世界の子どものたちのつながりを考えよう！
	39	穴倉 綾乃	一般/高校生、大学生、社会人	1.5時間	フェアトレード名古屋ネットワーク ユースター・夢
	40	服部 秀子	一般/教員、保護者、大学生等	2時間	これからの教育の話をしよう！～イェナプラン教育を見て～
	41	寺田 卓二	一般/エコパートナー	2時間	みんなで考えるエコパートナー

※凡例：名前の中のE,G：教師海外研修受講者（Eはエルサルバドル、Gはガーナ）、時間数は1時限＝1時間として表記している。

所属	名古屋市立浮野小学校	実践者	高井 菜穂子
対象	小学1年生	時間数	6時間＋日常実践
場所	教室	実践教科	道徳、学活
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な人や文化の存在を知り、相手を肯定的に受け止めることができるようになる。 ・ 価値観や文化の同一性や多様性を知り、相手の気持ちを考えることができるようになる。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<p>◆ 相手のことを知る</p> <p>○ ともだちってなんだろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 絵本『ともだちや』の読み聞かせを聞き、主人公の気持ちを考える。その後「友達との思い出」の絵を描き、その時の自分の気持ちを振り返ることで、友達とは大切な存在であるということに気付く。 	<p>絵本『ともだちや』</p> 
	2	<p>○ ガーナのことをしろう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ガーナの写真や動画、クイズなど、パワーポイントにまとめたものを見て、教師が体験してきたガーナの概要を知る。 	<p>よいところ見つけの表</p> 
	3	<p>○ ともだちのことをしろう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2人組になりお互いの自己紹介を行う。その後、グループになり、自己紹介を合った子の他己紹介をグループ内で行う。 	
	日常実践	<p>◆ 肯定的に受け止める</p> <p>○ ともだちのよいところをみつけよう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎日の帰りの会で「友達の良いところ見つけ」行い、日常的に友達の良いところに目を向けるようにする。発表した良いところは、教師が付箋に書いて表に貼り、教室に掲示する。活動の最初や途中で、絵本の読み聞かせを行う。 	<p>絵本『ともだち』</p> <p>『くれよんのくろくん』</p> 
	4	<p>○ ガーナをたいけんしよう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教師がガーナで買ってきた楽器や雑誌、服などを実際に見てふれることで、ガーナのおもしろさを味わい、ガーナを身近に感じる。授業後、ガーナの物は教室に置き、いつでも手に取れるようにする。 	<p>ガーナのもの</p> 
	5	<p>◆ 違いに気付く</p> <p>○ ガーナと日本のちがいをみつけよう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前時までの学習で知ったガーナを振り返り、ガーナと日本の同じところや違うところを考えて対比表にまとめる。違うところも同じところもあるということに気付く、違いがあるからおもしろいということに気付く 	<p>対比表</p> 
6	<p>○ みんなの気もち♡(友達と自分の違いに気付こう)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 二つの表情の顔に色を塗ったり、「おいしそうなケーキ」を描いたりする。同じテーマでも塗る色や描く絵が違うことがあるということに気付くことで、人の考え方や感じ方はそれぞれの違い、違っていても良いのだということを感じる。 		
成果	<p>ガーナの話聞き異文化に興味をもった児童が多かった。ガーナと日本を比べる場面では、それぞれの違いに気付き「違うところがたくさんあるけど良い」「そのほうが面白い」という意見が児童からあがり、文化の多様性を認めることができていた。児童にとって身近な存在である友達をキーワードに実践を進めたことで、相手のことに関心をもつようになり、さらに相手のことを温かい心で肯定的に受け止めることができるようになった。</p>		
課題	<p>「友達と自分の違い」と「日本と外国の違い」を結び付けて捉えることができたようにしたが、1年生の学齢的に少し難しかったように思う。友達と自分の違いは、漠然とわかっている児童はいるものの、実感し気付くところまではできなかった。実践だけではなく日常的な声掛けで、継続して指導していくことが大事だと感じた。</p>		
備考	<p>NPO 星槎教育研究所・NPO 日本標準教育研究所『U-SST ソーシャルスキルワーク』</p>		

所属	岐阜県高山市立東小学校	実践者	山田真沙美	
対象	小学1年生	時間数	9時間	
場所	教室・校庭	実践教科	学級活動・生活・道徳・図工	
ねらい	○ガーナの様子から違いや同一性を見つけて関心を持ち、日本とのかかわりを知る。 ○他者と自分から優しく温かい関係を築こうと行動することができる。			
実践内容	回	プログラム	備考	
	第1回 1	ガーナってどんな国？ ○ガーナの学校や町、人々の様子を見て関心をもつ。(学年合同) ① 世界にはたくさんの国があることを知る。 ② ガーナの町や子ども達の様子を知る。 ③ 振り返り(気付いたこと、やってみたくておもったこと)	パワーポイント資料	
	2	○ガーナと日本につながりがあることを知る。(他校交流者含む) ① アイスブレーキング(ハースデイライン)(自己紹介) ② ガーナクイズ・ガーナ体験をする。(頭でものを運ぶ) ③ ガーナのカカオが日本で使われていることを知る。 ④ ガーナで作られたチョコレートを食べる。 ⑤ 振り返り(気付いたこと、思ったこと)	パワーポイント資料 ガーナクイズ ガーナ産チョコレート	
	第2回 3・4	ガーナと同じところと違うところは？ ○写真を見て同じところと違うところを見つける。 ① アイスブレーキング(私が知ってる世界の国を伝えてみよう) ② グループで写真を見て同じところと違うところを見つけ、発表する。 ③ 振り返り(同じところや違うところがある。気持ちはどうなのか考える。)	パワーポイント資料 ガーナの写真 対比表	
	第3回 5・6	ガーナの人と気持ちは同じかな？ ○紙飛行機を作って飛ばし、ガーナの子達と同じ気持ちか確かめる。 ① ガーナで教師と紙飛行機を飛ばす子ども達の様子を振り返る。 ② 飛行機を作って飛ばす。 ③ 振り返り(ガーナ子達と気持ちが同じだったかどうか確認する。)	パワーポイント資料 ガーナで作った紙飛行機 の材料 紙飛行機を作った動画	
	第4回 7・8	はじめてあう人となかよくなるにはどうしたらよいだろう。 ○ガーナの子どものダンスと、一緒に踊る教師達の様子を見て考える。 ① アイスブレーキング(ガーナの授業で心に残っていること) ② ダンスの様子を見て感想を伝え、一緒に踊ってみる。 ③ 踊った感想を伝え、もし、先生達が踊らなかつたらどうなったか考えて伝える。 ④ 振り返り(初めて会う人と仲良くなるためにどうしていきたいか考える)	パワーポイント資料 ガーナの子どものダンス 動画	
	9	となりのクラスの仲間ともっとなかよくなろう。 ○自分から関わることを意識し、教師がガーナで教えていた様子を参考に隣のクラスの子に紙飛行機の作り方を教える。 ① めあての確認 ② 紙飛行機を教えながら作り、一緒に飛ばす。 ③ 振り返り(隣のクラスの子から感想をもらい、自分たちも活動を振り返る)	紙飛行機 の材料	
	成果	授業実践の後、児童は来年度入学する園児たちと交流会を行う。初めて会う人と関わることは、恥ずかしいし勇気がいるけれど、自分から関わっていくことが他者との仲を深められることに気づき、行動しようとする児童が多かった。またガーナだけでなく、他の国々の様子も知りたいと願う子ども達が増えてきた。		
	課題	自分から関わる大切さを理解していても、勇気を出して他者に関わっていくことが難しい児童もいる。日常の中で新しい仲間と関わりあう活動を増やし、自信をもたせていきたい。		
備考	1年生で世界の知っている国の数も少ない。教室の中に世界地図や地球儀、ガーナの楽器などを置いて世界を身近に感じ、興味をもてるようにした。国語の「しらせたいな、みせたいな」という単元の紹介文を書く活動では、ガーナの楽器のことを取り上げる児童がクラスの三分の一以上はいて、ガーナへの関心度の高さも伺えた。			

所属	伊賀市立友生小学校	実践者	中川 幸
対象	小学4年生(日本語教室)	時間数	2時間
場所	日本語教室	実践教科	総合的学習の時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉は感情を伴うことで、聞き手に様々な印象を与えることに気づく。 ・けんかを引き起こさない。または、激化させないように、自分の気持ちを伝える言い方を考えることができるようになる。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<p>【気持ちを表現する言葉にはどんなものがあるだろう。】 ◇いろいろな気持ちを表す言葉を書き出してみる。 (気持ちのウェビング)</p> <p>【どうしてけんかになるのだろう?】 ◇ウェビングで書き出した言葉の中で、けんかになりそうだと思う言葉に☆印をつける。 ◇☆印をつけた言葉はどんな言い方でも腹が立つかな? ◇「今日は金曜日です。」という台詞を、「怒っている」「うれしい」「悲しい」「心配だ」などの感情を込めて言う。</p>	<p>『子どもとできる創造的な対立解決 実践ガイド』 モーニングサイドセンター 編 開発教育協会 編訳・発行</p> 
2	<p>【怒っている時、心や体はどうなっている?】 ◇けんかをした時や、腹が立った時のことを思い出して、自分がおこっている時、心や体はどんな状態だったかを思い出す。 ◇腹が立っているときに強く注意をされたら受け止められる?</p> <p>【気持ちが伝わるメッセージを考えよう。】 ◇相手の行為によって不愉快な気持ちになったとき、相手にどんなメッセージを伝えるかを考えよう。 ◇事実と自分の気持ちだけを話そう。(わたしメッセージ) ◇言い方を工夫することで、相手はメッセージを受け止めてくれるだろうか? (ロールプレイ) 場面①AはBを呼び止めるが、Bは何も言わず行ってしまう。 場面②授業中、Aは指名されて音読をしているが、漢字の読み方を思い出すのに時間がかかるので、Bがすぐに読み方を教えてしまう。Aは迷惑だと思っている。 (各場面で、自分がAならBにどんなメッセージを伝えるかを考える。)</p>	<p>・実際にあった事例も紹介する。</p> 	
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に起こった事例を取り上げたので、その時の気持ちを考えやすかった。 ・「わたしメッセージ」で自分の気持ちを伝えることで、聞き手は話し手の気持ちを受け止めやすくなり、解決につながることを実感できた。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・「わたしメッセージ」で話すためには、話し手が冷静にならなければならない。そのためにも、感情をコントロールするスキルを身につけるアクティビティを組み込めるとよかった。 ・日常で起こる様々な対立の場面で、練習を重ねることができるとよい。 		
備考	日本語教室では、標準語のアクセントを意識し、デス・マス形で学習を進めるようにしているが、今回の実践では、実生活に近づけるために普段使用している話し言葉で学習を進めた。		

所属	静岡県磐田市立竜洋西小学校	実践者	望月 衛
対象	小学4年生	時間数	3時間
場所	教室	実践教科	社会科
ねらい	安全な水が得られることで解決される問題と、目に見えない多くの水が存在することを知り、安全な水と、水を通じた日本と世界とのつながりについて考えることができる。そして、ポスターセッションにより、それを伝えることができる。		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<ol style="list-style-type: none"> 1 自分の水利用について振り返る。 2 世界の水事情について知る。 3 本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">タリムさんの生活を改善しよう。</div> <ol style="list-style-type: none"> 4 タリムさんの生活から問題を話し合おう。 5 タリムさんが私たちの様に水を使えたら、生活はどのように変わるだろうか。 6 本時のまとめをする。 7 次時の学習内容を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の水事情マップを提示し、アフリカの水問題について考えようとする意欲を持たせる。 ・タリムさんの1日の写真を時系列に並べ、そこにどんな問題があるか話し合わせ、派生図を書かせる。
	2	<ol style="list-style-type: none"> 1 好きなメニューを発表する。 2 本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">メニューを作るのに、どれくらいの水が使われているのだろうか。</div> <ol style="list-style-type: none"> 3 メニューを作るのに使う水の量を予想する。 4 実際に使う水の量から予想との違いについて話し合う。 5 バーチャルウォーターについて考える。 6 外国とのかかわりについて考える。 7 水を通じた日本と世界とのかかわりについてまとめる。 8 次時の学習を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・好きなメニューの中から代表的な「ハンバーグ、かつ丼、チキンカレー」を取り上げる。 ・実際に必要な水の量を提示する。 ・バーチャルウォーターの輸入を示した地図から、多くの水が輸入されていることを知る。
	3	<ol style="list-style-type: none"> 1 本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">水の大切さを伝えるポスターを作ろう。</div> <ol style="list-style-type: none"> 2 水の大切さが伝わるポスターを作る。 ○タリムさんの1日を選んで、水の大切さを伝えるポスターを作る。 ○バーチャルウォーターから、世界と日本の水のかかわりが分かるポスターを作る。 3 ポスターを発表する。 4 学習のまとめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タリムさんの写真、メニューの絵をポスターの中心に貼り、問題点や改善点などについて、前時までに学んだことを基に作成する。 ・ポスターを発表し、学んだことの共有化を図る。
成果	きれいな水が飲めることが当たり前になっている子供たちが、エチオピアの水事情を知ることで、水の大切さを感じることができた。また、水を通じた世界とのつながりから、世界の国々との関わりを大切にしたいと思う子どもが増えた。ポスターセッションでは、全員の子どもが発表する機会を与えることができた。		
課題	子どもの実態を十分生かした指導計画ができなかった。また、指導時間が十分取れなかった。世界の水事情や水の課題については、調べ学習をしながら課題解決へとつなげることができればさらに良いと思う。		
備考	参考文献「水から広がる学び」開発教育協会		

所属	桑名市立久米小学校	実践者	駒谷 奈津
対象	小学4年生(79名)	時間数	全10時間
場所	教室、家庭科室	実践教科	総合的な学習の時間
ねらい	1)エルサルバドルと肯定的に出会う。 2)エルサルバドルや世界の国々と自分たちがつながっていることを知る。 3)世界は支え合っていることを知り、誰かを支えるために自分ができる事を考えて実践する。		
実践内容	回	プログラム	備考
	1 (1時間)	I エルサルバドルってどんな国なの？ ① アイスブレーキング「夏の思い出」 ② フォトランゲージ「エルサルバドル？日本？」 グループ活動* 1 ③ 思ったことを伝え合おう。 グループ活動	*1 用いた写真 街中の様子 ファストフード店 日本車 民族衣装を着た子ども 冷蔵庫 食べ物
	2 (1時間)	II エルサルバドルのコーヒーとわたしたち ① スライド&絵本「コーヒーってどう作るの？」* 2 ② 実習「エルサルバドルのコーヒーでコーヒーゼリーを作ろう」 ③ブレインストーミング「もしもロヤ病が流行し続けたら」 グループ活動* 3	*2 パワーポイント資料 エルサルバドルで購入したコーヒー絵本 *3 半模造紙、ペン
	3 (1時間)	III ボランティアでつながる世界 ① スライド「防災教育を拡げる日本人～エルサルバドルのBOUS AI」* 4 ② 講演「ボランティアに必要なもの」 ゲストティーチャー* 5 ③ 感想を書く	*4 パワーポイント資料 *5 東日本大震災のボランティアスタッフに来校を依頼
	4 (7時間)	IV 私にもできた！ボランティア ① 前回の振り返り（感想の共有） ② 派生図「身近にあるボランティア」 グループ活動 ③ 調べ学習「身近にあるボランティアを調べて知らせよう」 課題別グループ活動* 6 ④ 実習「私にもできた！ボランティア」 地域のフェスタに募金活動で参加* 7	*6 模造紙、ペン、資料、聞き取りのお願い *7 カービング石鱈を図工で作成、メッセージカード、ラッピング
成果	1)身近な教師が海外に行くことで、海外に興味を持ち、意欲的に学習に参加できた。 2)将来、海外に行きたい子、語学習得に意欲を持つ子などが現れ、キャリア教育にもつながった。 3)ただ、ボランティアをするのではなく、誰のため、何のために自分ができる事なのかを考えて行動ができた。		
課題	実際にエルサルバドルに行き、得たたくさん情報や課題の中から、どこを切り口にどのようにプログラムを進めるが取捨選択が難しかった。また、自分たちができるボランティアの活動が募金活動になったことにより、特別な活動となってしまう、日ごろの自分の行動に直結しなかった事が課題として残った。		
備考	学年でプログラムを実施したため、隣のクラスとの連携が取れるようプログラムをできるだけ単純にした。4年生は国語や社会、道徳でも「誰にでも優しい社会」について学ぶ学年であるので、総合だけでなく、様々な教科において多面的に取り組みを進めた。		

所属	愛知県名古屋市立引山小学校	実践者	板倉 めぐみ
対象	小学5年生	時間数	3時間
場所	教室、視聴覚室	実践教科	総合的な学習の時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・他国についてたくさんの視点から考え、違いを肯定的に受け取ることができる。 ・発展途上国の問題は日本とも関係していることや先進国である日本にも問題があることを知り、暮らしの中で自分たちができることを考える。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	想像ガーナ！本当ガーナ！ ① ガーナってどんな国？ 用紙に箇条書きで記入する。 ② 想像のガーナをつくろう ・グループをつくり、①で想像したガーナを発表する。 ・グループで相談し、用紙にイラストと言葉で想像ガーナをつくる。 ・グループごとに想像ガーナを紹介する。 ③ 本当のガーナを知ろう ・パワーポイントの写真を見て、ガーナについて知る。 ・実物教材(カカオ、お金、楽器、チョコレート)に触れる。 ④ 思ったことを発表する “やっぱりね”“びっくり”と思ったことを発表する。	・現地で撮影した写真
	2	世界と日本の健康問題について知ろう ① 健康問題について知る グループをつくり、テーマ(国内の水・食・健康、世界の水・食・健康)に沿った資料を読む。 ② 必要な情報をまとめる ・資料を読んで印象に残ったこと、みんなに知ってもらいたいと思った箇所に印をつけ、印をつけたところを中心に資料の内容を画用紙にまとめる。 ③ グループ内で情報を共有する グループ内で画用紙にまとめたことを発表する。	
	3	みんなが健康な生活を送るために、自分たちができることを考えよう ① まとめたことを発表する 同じテーマの世界・国内グループ間でまとめたことを発表しあう。 ② 国内と世界の健康問題を確認する 水・食・健康について国内と世界にはどのような問題が起きているのか全体で確認する。 ③ 自分たちにできることを考え、発表する	
成果	写真の表情に注目させたり、現地でのエピソードを話したりしたことで、ガーナの様々な健康課題を取り上げたが、子どもたちはガーナをとっても肯定的に捉えていた。健康問題について知り、自分の生活を振り返るとともに、これからどのようになるとよいか考えることができた。		
課題	子どもたちに伝えたいこと、知ってほしいこと、考えてほしいことがありすぎて、内容を盛りだくさんにしてしまい、最後の自分たちにできることを考える活動が十分にできなかった。限られた時間内でできるよう、授業内容や活動を精選する必要がある。		
備考	授業は担任とTT指導で行った。		

所属	名古屋市立稲葉地小学校	実践者	宮嶋いずみ
対象	小学5年生	時間数	5時間
場所	教室, 多目的室	実践教科	総合
ねらい	自分たちが住んでいる地球は、どのような人がいてどのような暮らしをしているのかを知り、私たちが世界のためにできることは何かを考える。		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	○ 「もったいないばあさんと考えよう世界のこと」(絵本) 世界の様々な国の 10 人の子どもの生活を知り、世界には様々な環境に住む自分たちと同じくらいの年齢の子どもがいることを知る。	「もったいないばあさんと考えよう世界のこと」 講談社
	2-3	○ 「世界がもし5年3組 40 人の村だったら」 ・ アイスブレーキング 世界地図の行ってみたい国にシールを貼り、クラスの友達が興味をもっている国を知ると共に、世界について考えるきっかけをつくる。 ・ 「世界がもし5年3組 40 人の村だったら」 地球を5年3組 40 人の村だったらとみなし、引いたカードのグループに分かれる。 ○ 性別 ○ 年齢 ○ 地域 ○ 言語 ○ 所得の分配 ○ 識字率 ・ 世界の多様性を知る 「世界がもし100人の村だったら」を読み、地球には様々な人がいて、様々な環境で暮らす人がいることを知る。	「『世界がもし100人の村だったら』第4版」 開発教育協会 ・役割カード ・タフロープ ・水・薬・毒のラベル ・ペットボトル ・ワークシート
	4	○ 世界の食糧問題について知ろう ・ 資料を読み、世界の食糧問題について知り、私たちにできることを知ったり、考えたりする。 ・ 自分が取り組みたいことを発表し合うことにより、考えを共有し意欲を高める。	「世界の食糧」 JICA 地球広場 ・ランキング用画用紙 ・ペン
	5	○ 私たちにできること ・ 食料問題を改善するために必要であることを与えられた9項目から考え、グループでランキングを考えて発表する。	「『世界がもし100人の村だったら』第4版」 開発教育協会
	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・世界を5年3組に縮小して様々なグループ分けをしたことにより、人口密度や使用されている言語の種類や使っている人口の多い少ないなどの世界の今を理解しやすくなった。 ・世界には様々な人たちがいて、自分たちもその中の一人なのだと理解することができ、多様性について知ることができた。 ・世界の食糧問題の現状について知り、自分たちが今、そして将来できることを考えることができ、今までより世界に興味をもつ児童が多くなった。 	
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・アクティビティを通して世界の今を知り、その中から世界の食糧問題を取り上げた。しかし、子どもたちからは他にも環境問題や貧富の差がなぜできるのか、などの疑問の声が出た。今後学んだことから、自分が興味を持った問題について調べ学習などをし、全体で共有していきたい。 		
備考			

所属	犬山市立犬山南小学校	実践者	伊藤 樹李
対象	小学5年生	時間数	6時間
場所	教室	実践教科	学級活動
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ ガーナの人々やその生活から世界の多様性に気付き、日本との違いを肯定的にとらえる。 ・ 自分の生活と世界が繋がっていることに気付き、世界のみんなが幸せに暮らすために、できることを見つけ、実践意欲をもつ。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	みんなのガーナのイメージは？ ・ガーナのイメージをブレインストーミング・イメージ図に書き出す。 ・ガーナの絵や置物、楽器などに触れ、イメージを膨らませる。	・現地で購入したもの（国旗、楽器、雑誌、絵チョコレート等）
	2	日本とガーナの似ているところと違うところを見つけよう！ ・ガーナの紹介スライドを見て、ガーナの衣・食・住・学校等について知る。 ・日本と比較し、“似ているところ”と“違うところ”の対比表を作成する。	・ガーナで撮影した写真や動画（町の様子、食べ物、住居、衣服、人々の様子等）
	3	もしも…世界中の人達がみんな同じだったら？ ・「もしも世界中の人達がみんな同じだったら…」を予想し、考えを付せん紙に書き出す。 ・書き出された付せん紙を二次元軸（X軸：世界のこと、5の2のこと Y軸：良いこと、あまり良くないこと）に分類し、良くないことが多いことに気付く。	
	4	どれも違っていいのかな？ ・第2回で作成した対比表の“違うところ”を見返し、“あってもいい”違いと“あってはいけない”違いに色分けをする。 ・“あつたらだめ”な違いをなくすために、どうしたいか願いをもつ。	・JICA 地球調査隊 「いのち、輝け！」 「世界の水問題」 「学校に行けない子どもたち」
	5-6	世界みんなが幸せに暮らすために、できることを見つけよう！ ・ガーナの青年海外協力隊員が、ガーナ人のために自分のスキルを生かして活動していることを知る。 ・身近な人から世界中の人々が同心円状に繋がっていることに気付き、世界中の人々が幸せに暮らすためにできることを付せん紙に書く。 ・自分にできること、仲間とできること、国のできることの3つの視点からできることビンゴを作成する。	・ガーナで撮影した写真や動画（青年海外協力隊の方の活動の様子）
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童は教師の体験した話や写真、実物等に触れ、ガーナに親近感をもち、世界の多様性に気付くことができた。また、日本との比較で、それぞれの良さに気付き、相違点も肯定的に受け止めることができた。 ・ 児童一人一人が、世界の幸せを願い、できることを一生懸命考えることができた。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域による“あってはいけない”違いを見つけた上で、児童一人一人が世界の諸問題についてテーマを決めて調べ学習等の探求的活動を取り入れられるともっと学習が深まったと感じる。 		
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本とガーナの相違点を肯定的にとらえていく中で、考えの異なる級友と自分の違いも肯定的にとらえ互いに認め合う場面が増えたことは非常に嬉しく感じた。 		

所属	小牧市立米野小学校	実践者	青山 英孝
対象	小学5年生	時間数	7時間
場所	教室	実践教科	総合的な学習の時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ファンティパイナップルの栽培を通して、村の貧困改善に奮闘した青年海外協力隊員の活動を知り、グローバル化時代を意識した生き方や持続可能な国際協力の在り方について考える。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<ul style="list-style-type: none"> ○ ガーナ共和国の人々の暮らしや社会の様子に気付く。 ・知っていることやイメージを交流したあと、教師海外研修で撮った写真を見て、気付いたことを共有する。 	地図帳 地球儀 パワーポイント
	2	<ul style="list-style-type: none"> ○ ガーナ共和国で行われている農業の様子について知る。 ・主な農産物と、ファンティパイナップルの特徴を知る。 	フォトランゲージ 動画と写真
	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ アチュワ村で奮闘した青年海外協力隊員の取り組みを知る。 ・「アフリカで今も語り継がれる日本人」を視聴し、武辺寛則さんが貧しい村を救済しようと挑戦した活動について意見を交流する。 	TV「奇跡体験アンビリバボー」より 付箋
	4	<ul style="list-style-type: none"> ○ 武辺さんの「意志あるところ、道は通じる」について考える。 ・手記や手紙から、活動に込めた武辺さんの思いを話し合うとともに、発展途上国に対する支援の在り方について考える。 	書籍「ガーナに賭けた青春」女子パウロ会 ブレーンストーミング
	5	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2014年から赴任している青年海外協力隊員の活動を知る。 ・坂田実緒子さんが取り組むコミュニティ開発について話し合う。 	インタビュー動画 写真
	6	<ul style="list-style-type: none"> ○ 坂田さんの思いや夢について考える。 ・ブログを読み、やりがいや苦勞について知り、コミュニティ開発で大切な支援の在り方についてグループで意見を交流する。 	坂田さんのブログ 派生図
	7	<ul style="list-style-type: none"> ○ 武辺さんと坂田さんの生き方について話し合う。 ・過去と現在の青年海外協力隊の活躍を軸に、国際協力のあるべき姿について考え、坂田さんの生き様を俳句にして詠む。 	グループワーク 画用紙
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な素材を教材化し、ストーリー性のあるプログラムを構成したり、参加型アクティビティを導入したりすることによって、「考え、学び合う授業」に変容し、自分の視野や考えを深めることができた。 ・ガーナ共和国の現状について実感を伴った学習が展開したことで、固定観念から脱却しアフリカを肯定的にとらえることができ、ガーナ共和国に対して親近感を持つ児童が増えた。 ・海外で活躍する日本人の生き方に触れたり、発展途上国の課題に目を向けたことで、夢や目標を持つことの大切さに気付くことができたうえ、普段の生活や自分自身を見つめ直すきっかけにもなった。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・児童にとって身近ではない事象を、より実感を伴った学習にするための取材資料の効果的な提示方法。 ・農産物に限定せず、青年海外協力隊の諸活動を多面的・多角的に実感できるプログラムの再構成。 ・学んだことを活かして、自分達にできる国際貢献という具体的な行動化にまで迫ることができなかった。 		
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・学級によって反応や意見が異なり、ワークショップ型の広がり面白さと、まとめ方の難しさを感じた。 ・5年生の実践に加えて、他の学年においても学年の発達段階に合わせて実践を試行した。 		

所属	名古屋市立表山小学校	実践者	大島 風花
対象	小学6年生(108人)	時間数	3時間
場所	プレイルーム(トワイライト)	実践教科	総合的な学習の時間、社会、国語
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・エルサルバドルを例に、世界の多様な文化や価値観をおもしろいと感じる。 ・エルサルバドルを例に、日本と世界の国々はつながっており、課題を共に解決していくことが大切だと気づくことができる。 ・自分がしあわせに生き、世界の人々と共によりよい未来を築いていくために、将来のビジョンを描く。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<p>～エルサルバドルって、どんな国？～</p> <ul style="list-style-type: none"> ○エルサルバドル人と友達になる。 <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人、エルサルバドル人の友達の情報を受け取る。 ・自分の友達になりきり、グループで自己紹介をする。 ○その友達が暮らすエルサルバドルの文化や習慣について知る。【グループ対抗クイズ大会】 ○エルサルバドルの文化を体験する。【ピニャータ割り・おもちゃ・民族衣装の体験】 	<p>現地アンケート情報 (写真、名前、年齢)</p> <p>パワーポイント(エルサルバドルクイズ) ホワイトボード 18枚 ピニャータ・おもちゃ・民族衣装(エルサルバドルボックス)</p>
	2	<p>～あなたにとっての「しあわせ」とは？～</p> <ul style="list-style-type: none"> ○アイスブレーキング:最近1番「しあわせだな～」と感じたとき ○自分の「しあわせ」につながる「①大切なもの②今ほしいもの or したいこと③夢」を書いて、グループで発表する。 ○エルサルバドルも日本でも、戦争や内戦に対して「二度と起こしたくない」と、同じ思いをもっていることに気付く。【クイズ】 ○自分のエルサルバドルの友達の答えを知り、自分たちと同じところや違うところに気付く。 ○みんながしあわせに生きるために、地球上の誰にとっても大切なものを、グループで7つ決める。【KJ法】 	<p>現地アンケート情報 (①大切なもの②今ほしいもの or したいこと③夢) 模造紙・付箋・マジック</p>
	3	<p>～みんなと「しあわせ」に生きるために～</p> <ul style="list-style-type: none"> ○エルサルバドルの課題に気付く。【フォトランゲージ】 ○算数ができない、進学率が低い、治安が悪い…そういう課題を放っておくと、どうなるか考える。【派生図】 ○みんなとしあわせに生きるために、青年海外協力隊や JICA の人が世界で活動していることを知る。【写真クイズ】 ○日本が東日本大震災の時に受けた支援の状況を知り、世界が互いに支え合っていることに気づく。【数字クイズ】 ○みんながしあわせなよりよい未来について、考える。【プレスト】 ○自分が望むよりよい未来のために、「わたしのためにできること」「みんなのためにできること」「自分の夢」を考える。 	<p>パワーポイント (現地写真3種類) 模造紙・マジック</p> <p>パワーポイント</p> <p>パワーポイント</p>
成果	<p>日本との共通点やつながりに気付きやすいクイズをつくり、楽しく文化を体験することを通してエルサルバドルという国に肯定的に出会うことができた。現地でのアンケート結果から「しあわせ」を見つめ直し、「みんながしあわせなよりよい未来」について考えを深め、よりよい未来を築いていくために自分にできることを、将来のビジョンをもって考えることができた。</p>		
課題	<p>「遠いエルサルバドルとつながっている！」という実感をよりもたせるために、現地の子どもからのメッセージを集めておいたり、現地とスカイプで交流したりという工夫が必要であった。</p>		
備考			

所属	岡崎市立美合小学校	実践者	猪飼 美穂子
対象	小学6年生	時間数	4時間
場所	美合小学校6年2組教室	実践教科	総合的な学習の時間
ねらい	① 教育が受けられない子がいることを知る ② 教育の大切さに気付く		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	世界の友達って、今何をしているの？ ・世界の子どもたちが、どんな生活をしているのかを*DVDを見て知る。 ・①モンゴルの少年 ②ロシアの兄弟 ③レソトの少年 ④パプアニューギニアの村の少年 ⑤グアテマラの農村生活 ⑥スワジランドの生活 ・「その子」を読む。その子と自分の生活の違いを感じる。 ・『もったいないばあさんと考えよう世界のこと』を読む。 →みんなが学校に行っているときに、いろいろなことをしていたり、いろいろな場面に出くわしたりしている世界の子どもたちをみつめる。	*『未来の主演 地球の子どもたち』(TVQ 九州放送) 『もったいないばあさんと考えよう世界のこと』(真珠まりこ著)
	2	なんで学校に行けないの？ ・1次のふりかえり。 ・「学校にいけない」のカードを使って、並べかえを行う。(これが原因で、次がこうなって、と矢印でつなげられるように並べる。) ・なぜ学校に行けないのかを考える。 ・どうすれば学校に行けるようになるかな。	
	3	なんで自分たちは学校に行けるの？どうして行くの？ ・2次までのふりかえり。 ・なぜ自分たちは学校に行けるのだろう。 ・なぜ自分たちは学校に行くのだろう。	
	4	その子はどうなるの？どうすれば学校に行けるようになるかな。 ・3次のふりかえり ・学校に行くために必要な環境や条件を考える。 ・環境や条件を獲得するためにはどんな方法があるかを考える。 ・方法のために自分たちができることは何かを考える。 ・資料を見る。	
成果	・世界には学校へ行きたくても行けない子どもたちがいるという事実を知り、その原因について考えることができた。 ・学校へ行けることへのありがたさや重要性を感じる事ができた。		
課題	・「学校へ行けるようにするためには、国がお金を出せばいい」という漠然とした答えしか出てこず、知識の幅の限界を感じた。 ・「知る」の段階だけでは国際社会に貢献しようという気持ちを育てることは難しく、実際に行動に移すための道筋を作れる教師になりたい。		
備考			

所属	岐阜県関市立武儀東小学校	実践者	橋本 奈央
対象	小学6年生	時間数	8時間
場所	教室、パソコン室	実践教科	総合的な学習の時間
ねらい	開発途上国と肯定的に出会い、国の様子を主体的に調べることを通して、世界の国々に対する興味・関心を高めるとともに、自分とは違う文化や人について理解しようとする心情を育てる。		
実践内容	回	プログラム	備考
	1, 2	<u>日本と開発途上国のつながりを知ろう</u> ★私たちの生活と開発途上国とのつながりが深いことに気付く。 ・教室の中にあるもので、世界とつながっていると思うものを探し、グループごとに発表する。 ・「開発途上国の分布図」を見て、途上国が多くあることを知る。 ・グループに配られた3種類のデータのうち、1人1つ選び3つの視点(内容・分かったこと・感想)で読み解く。 ・読みとったことをグループで交流し、1~3つの文章にまとめる。 ・グループごとに発表する	◆資料「国際理解教育実践資料集」 ・P14「各国の1人当たり国民総所得と先進国の政府による援助」 ・データ① P5「貿易から見る日本と発展途上国との関係」 ・データ② P5「発展途上国からの輸入割合が増えたもの、減ったもの」 ・データ③ P6「お好み焼きの原材料の輸入割合」 ◆青年海外協力隊のモロッコ隊員と協力し、skypeで交流できるようにする。
	3, 4	<u>モロッコの子どもたちと交流しよう</u> ★テレビ電話をすることを通して、世界には様々な人がいることを実感し、世界と肯定的に出会う。 ・モロッコの国の概要、子どもたちの生活の様子について話を聞き、自分の当たり前が他の国の子どもには当たり前ではないかもしれないことを知る。 ・自分たちの生活とモロッコの子どもたちの生活の違いについて考え、質問したいことを決める。 ・モロッコの小学生とSkypeで交流する。 (自己紹介・国歌の交流・質問タイム) ・感想を交流する。	
	5~8	<u>開発途上国の観光大使になろう</u> ★自分が選んだ国について親しみを持ち、自分達とは違う文化について理解しようとする心情を育てる。 ・観光大使として、調べて仲間にPRしたい国を1つ決める。 ・その国の概要、観光名所、食べ物、学校の様子や子どもたちの暮らしの様子などについて、本やインターネットで調べ、パワーポイントでまとめる。 ・まとめたことについて発表する。	
成果	開発途上国に対する自分のイメージと、調べたこととの違いに気づき、その国への関心を高めることができた。自分たちの暮らしの様子と比べ、共通点や相違点を考えることを通して、外国に対して親近感を持つことができた。		
課題	調べたときはその国について関心が高く、知識も増えるが、しばらく経つと忘れてしまうので、より体験的な内容を増やすとよい。また、「違いを肯定的に受け止める」ということを、身近な人との触れ合いや生活の中でも実践し、定着できるようにしていくとよい。		
備考	【参考】 JICA 国際理解教育実践資料集		

所属	名古屋市立稲葉地小学校	実践者	中川 朋子
対象	小学6年生	時間数	10時間
場所	教室 大教室	実践教科	総合的な学習の時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○ 世界の文化に対する興味・関心をもつ。 ○ エルサルバドルと日本とのつながりや課題を知る。 ○ よりよい世界を築くための生き方を考える。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	【世界がもし32人の国だったら】 世界の人口、女性と男性の比率、大陸ごとの人口分布、世界の言葉に関するアクティビティを通して、世界の現状を大まかに理解する。	「ワークショップ版 世界がもし100人の むらだったら」 開発教育協会
	2・3	【小学生版“貿易ゲーム”】 3タイプの国(先進工業国、中進国、開発途上国)に分かれ、世界経済の偏りを類似体験する。	開発教育・国際理解教育 ハンドブック
	4	【世界と日本はつながっている】 JICAのHP「日本・途上国相互依存度調査 世界は、キミにつながっている。」を視聴する。	JICA HP 「世界は、 キミにつながっている」
	5・6	【エルサルバドルってどんなところ？】 ① 衣装、遊び道具、写真等に触れる。 ② エルサルバドルの概要や日本とのつながりを知る。	エルサルバドルBOX 教師海外チームで 作成したP. P 海外研修で集めた写真
	7	【エルサルバドルの現状】 ① 就学率の低さを知る。 ② 映画「イノセントボイス 12歳の戦場」を視聴する。	「イノセントボイス 12歳の戦場」
	8~10	【みんなで描く世界の未来】 ① 前回の振り返り ② 「こんな世界になるといいな」をみんなで考える。 ③ ②を新聞や絵にまとめる。 ④ ②を実現するために、自分がやろうと思うことを一つ考える。 ⑤ ホームステイ先で知り合ったエルサルバドル人や青年海外協力隊の人たちからのメッセージを聞く。 ⑥ 振り返り(思ったことや気付いたこと)	海外研修で撮った動画
	成果	<ul style="list-style-type: none"> ○ エルサルバドルをはじめ、世界の国々に対する関心を高めることができた。 ○ 世界と日本のつながりを理解することができた。 ○ 世界の正と負の面を理解した上で、どんな未来を創っていきたいか、また、そのために自分ができることを考え、共有することができた。 	
課題	<ul style="list-style-type: none"> ▲ 様々な情報を入れすぎたため、日本とエルサルバドルの共通点が分かりにくくなってしまった。何を考えさせるのかを明確にして活動を絞る必要があった。 ▲ 「できること」を「する」方向へ導く手立てが必要である。 		
備考			

所属	佐屋小学校	実践者	加藤未来		
対象	小学6年生 33名	時間数	12時間		
場所	教室・コンピュータ室	実践教科	総合・道徳・図工		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・海外と自国を比べ、多様性の中にも同一性があることを認識する。 ・夢の選択肢を広げ、夢の実現法を考える。 				
実践内容	回	プログラム	備考		
	1	【ガーナを知る】 ・ガーナで知っていること・ガーナのイメージ・ガーナの知っていること	・派生図 ・イメージ図 ・対比表 もっている→理由 どうして夢をもつことができたのか、夢の内容 もっていない→理由 なぜもっていないのか もちたいけど、もてない→理由 なぜもちたいのに、もっていないのか ・夢の選択肢を広げる夢をもっている人は、夢は1つだけでもなくて、もっと広げてもよいことを伝え、夢をもっていない人は、好きなことから広げさせる。 ・二次元軸 ・青年海外協力隊の方の話の動画		
	2	① 予想～ガーナの子の絵 ・ガーナの子どもの服装を予想して、グループで絵に描く。 ② 写真を見て、ガーナと日本の違いと同一性の発見 ・街や食べ物の写真から、ガーナと日本と同じところと違うところをグループで発見する。 ・感想を述べる。			
	3	【ガーナの子と自分の将来の夢を知る】 予想～ガーナの子の将来の夢 ・「もっている・もっていない・もちたいけど、もっていない」の3つから予想する。 ・ガーナの子の将来の夢の内容を全体で発表する			
	4	① 自分の将来の夢 ・「もっている・もっていない・もちたいけど、もっていない」の3つから、自分はどうなのか、理由と共に発表する。 ② 夢をもついいことを考える ・夢をもついいことをグループで考える。			
	5	【夢の選択肢を広げる】 ① メモリーツリー ・自分の夢、好きなことを紙に書きだす。			
	6	② 夢探し ・インターネットで検索し、さらに紙に書きだす。			
	7～10	③ 十二年後のわたし(図工) ・夢を叶えた自分を想像して、紙粘土で表現する。			
	11	【夢の実現法を考える】 ① 夢の実現法探し ・インターネットで、自分の夢の実現法を具体的に調べる。			
	12	② 夢の実現法を考える ・付箋に自分の意見を書いた後、グループで発表する。 ③ 実現させるには、今でしょ! ・②の付箋を今できること、将来することに分ける。			
	成果	・児童が真剣に、そして楽しく取り組むことができ、夢の選択肢を広げることができた。 ・夢をもっていない児童と夢をもっている児童の中でも、夢の実現性に不安を感じていたため、夢の実現について考える時間を設けたことによって、不安を軽減させることができた。			
	課題	・学年によって、子どもによって、時代によって、夢の有無や実現の不安については、変わる可能性がある。自分の児童の思いを聞きながら、プログラムや教師の話を考え、ときには変更も必要である。 ・6年生は、時間の確保の難しさややるべきことが多くて、計画的に行うことができなかった。自分が先を見通して、意識をもたなければならなかった。			
備考	・5、6、10回目は、コンピュータ室で行った。				

所属	名古屋国際センター	実践者	浅野 順子
対象	中学1年生	時間数	50分
場所	名古屋国際センター 3F リソースルーム	実践教科	社会見学
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ● 世界には教育を受けられず、読み書きができない人がいるという現状を知る。 ● 文字が読めないことの体験やその要因について考えることで、教育支援の必要性を理解し自分たちにできる国際協力の行動のきっかけを提供する。 		
実践内容	時間	プログラム	備考
	5分	【オリエンテーション】 ・アイスブレイク「私を漢字一文字で表すと…」 ・今日のルール「否定しない／質より量」	A4紙、ペン ルールを書いた紙
	7分	【文字が読めないってどういうこと??? ・薬のピンはどれか。(文字が読めない体験)	 ビン3本、台紙 *備考1
	5分	【クイズ①「非識字者のデータ」】 ・世界に読み書きのできない成人(15歳以上)の人数は? ・〇人に1人が読み書き計算できない? ・非識字者の男女比は? ・学校に行けない子どもの人数は?	スライド
	5分	【なぜ学校に行けないの?】 ・学校に行けない理由を考える(ポップコーン方式) ・「教育の機会を奪われている現状」を知る	板書、スライド
	10分	【学校に行けないとどうなるの?】 ・カード並べ替え(原因→結果) ・直線→輪	 「学校に行けない」カード (省略版) *備考2
	5分	【貧困のサイクル】 ・どうしたら抜け出すことができるか?(ポップコーン方式) ①自分=輪の中からどうやって抜け出すか? ②自分=輪の外から何ができるか?	
	10分	【私たちにできること】 ・世界寺子屋運動「書き損じはがきキャンペーン」の紹介	スライド 寺子屋リーフレット
	3分	【クイズ②世界寺子屋運動「書き損じはがきキャンペーン」】 ・〇枚の書き損じはがきで1人が1カ月間学校で学べる? ・書き損じはがき回収箱はどこにある? ・NICの取り組み~400万枚の書き損じはがきはテレビ塔の〇倍?	スライド
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・始めに、非識字者の体験をしたことで、「識字教育の普及」という課題をより身近に感じ、興味・関心を持って後のワークに取り組むことができた。 ・非識字者が「教育の機会を奪われている」という現状と、「貧困のサイクル」を断ち切るためには社会的な取り組みが必要だということへの気づきがあった。 ・キャンペーンの紹介を通して、行動につなげるためのヒントを得ることができた。 		
課題	同プログラムを2回実施したが、毎回少人数(5,6名、1グループ)での実施のため、意見の深まりが十分でないと感じることもあった。しかし、今後も少人数での実践が主であるため、このような条件でも、より深い気づきにつながるようプログラムを工夫する必要がある。		
備考	参考)1.開発教育協会「新・ワークショップ版 世界がもし100人の村だったら」、2.JICA「国際理解教育実践資料集」		

所属	岩倉市立岩倉中学校	実践者	岩田 恵梨子
対象	中学1年生 1年4組 32人	時間数	2時間 (50分×2)
場所	1年4組 教室	実践教科	学活1時間 道徳1時間
ねらい	① 世界の食と日本の食の多様性と同一性を知る。 ② 日本の食料、食糧事情について知り、食に関する問題意識を持つ。 ③ 食にまつわる情報や食輸入依存度の増加原因とその影響を踏まえて、持続可能な食の未来のために自分ができることを考える。		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	【世界の食の多様性を知ろう】 アイスブレーキング 好きな給食のおかずトップ3を挙げる。 フォトランゲージ <ul style="list-style-type: none"> 「世界の食卓」写真集より、1つの国の写真を見て、どの国の食卓か想像する。 日本の国の写真と比較し、共通点と相違点は何かをグループ内で話し合い、対比表にまとめる。 写真の国と日本の食についての解説資料を読み、概要を確認する。 分かったこと、気づいたこと(まとめ) <ul style="list-style-type: none"> 2つの国の食卓の写真と比較して、わかったこと・気づいたことをまとめる。他のグループに訪問し、2つの国の写真、対比表、まとめを見て、賛成できる意見に印をつける。 	
2	【世界の食から、日本の食の現状を知ろう】 食に関するデータから知る <ul style="list-style-type: none"> 食に関する資料を読み、印象に残ったことをグループ内で話す。 食品輸入依存度の増加影響とその原因について考える <ul style="list-style-type: none"> 食品輸入依存度が増加していくと、どんな影響があるかをグループで考え、派生図に書き出す。他のグループに訪問し、意見を共有し、派生図を見て自分も関係していると思う影響に印をつける。 食品輸入依存度が増える原因は何かをグループで考え、派生図に書き出す。他のグループに訪問し、意見の共有を行い、自分も関係していると思う原因に印をつける。 持続可能な食の未来のためにできることを発表する <ul style="list-style-type: none"> 自分たちのグループで考えた影響と原因を踏まえ、考える。 持続可能な食の未来のために、今の自分にできることを考える <ul style="list-style-type: none"> 今の自分にできることを3つ考え、グループ内で紹介する。 		
成果	各グループが積極的に活動に参加することができた。自分たちとは違う世界に触れることで、異なる価値観を受け入れる大切さを認識することができた。グループでのアクティビティを通じて、他人事から自分事へ視点を転換して気づきを行動にすることができた。		
課題	自分たち一人一人ができることを考えた後、“学級でもみんなができること”を考え、継続していく活動に踏み込むことができなかつた。お互いに行動すると決めたことを評価していくまでの時間がなく、個人の振り返りをするだけになった。気づきから出た行動を継続させていくような工夫や仕組みを作りたい。		
備考	この単元を実践するに事前準備として、「世界の仲間と友達になろう!」:自分と世界のつながりと様々な国と人々の生活を通して、異なる価値観があることに気づくことをねらいとして実践授業を行った。		

所属	三重大学教育学部附属中学校	実践者	中垣 尚子
対象	中学1年生	時間数	2時間(45分×2コマ)
場所	四附連携室	実践教科	英語
ねらい	違いを認める。 自分の良さを知る。		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<p>1 アイスブレイキング</p> <p>①自己紹介(好きな番組、行きたいところ)←4人班、1人30秒</p> <p>②ビデオ紹介(こんな所に日本人)</p> <p>2 キルギスのことを知ろう</p> <p>①クイズ 班で考える</p> <p>②答え合わせ パワーポイントを見ながら答え合わせをする 紹介を聞く</p>	<p>プロジェクター</p> <p>パソコン</p> <p>ムービー</p> <p>クイズ用紙</p> <p>資料集</p> <p>地図帳</p> <p>パワーポイント</p>
	2	<p>3 比べてみよう</p> <p>◇派生図</p> <p>①「キルギスのいいところ」を班で協力して書き出す ipadを使用して調べることができる 他の班に回す 時計と反対回り 1→2→3… ♥☆のマークをつける 戻ってきたものを見て班で交流</p> <p>②「日本のいいところ」を班で協力して書き出す 他の班に回す 時計回り 1→5→6… ♥☆のマークをつける 戻ってきたものを見て班で交流</p> <p>4 キルギスの日本語教室の様子を知る キルギスでの活動と日本で自分のできることの話聞く キルギスで日本語を勉強する生徒に向けて、日本や自分の町の良さも知ってもらえる自己紹介をするという設定で紹介文を考えて、発表の準備をする 班で発表する 紙に清書する</p> <p>5 振り返り 班でワークショップの感想を共有する。(一人30秒程度)</p>	<p>模造紙(半分に折って使用する)</p> <p>カラーペン</p> <p>ipadを各班に1つ</p> <p>♥私もそう思う</p> <p>☆びっくりした</p> <p>ムービー</p> <p>メモ用紙</p> <p>手紙用 用紙</p> <p>振り返り用紙</p>
成果	<p>・模造紙に書いたり、人の意見を見て記号を記入したりするのは初めてだったが、とても楽しそうにできていた。</p> <p>・キルギスに興味をもってもらえたようだった。</p>		
課題	<p>・情報が少なかったため、前もってキルギスについて調べることを宿題にすればよかった。</p> <p>・話し合いに時間がもっと取れば良かった。共有が足りなかった。</p> <p>・違いを知るところで終わってしまって、認めるレベルまではいけなかった。</p>		
備考			

所属	岐阜県大垣市立上石津中学校	実践者	野村 佳世
対象	中学1年生	時間数	4時間
場所	1年生各教室	実践教科	社会科・地理科
ねらい	日本とエルサルバドルの共通点を知り、エルサルバドルに興味をもつ。また、エルサルバドルの抱える問題について考え、よりよい生活を築くための方法を考えることができる。		
実践内容	回	プログラム	備考
	1時間目	<p>☆アイスブレイク☆ ○5人/1グループで「わたしの好きな観光地」を発表する。 【エルサルバドルと出会う】 ☆今年、わたしが訪れた国はどこか、写真を見て考える。 ・衣食住の写真 ・山の風景 ・現地の学校 ・人々 ☆エルサルバドルの基本情報を知る。 ・国の正式名称 ・人口 ・地形 ・気候 ・宗教 ・通貨 ・言語 ・歴史</p>	<ul style="list-style-type: none"> 訪れたことのある場所、訪れたい場所をあげる。 写真を見ながら、「おもしろいなと思うところ」を書き出す。 世界地図(地形) 民族衣装
	2時間目	<p>☆アイスブレイク☆ ○エルサルバドルのコーヒーを試飲してみる。 【エルサルバドルの産業を知る】 ☆エルサルバドルのコーヒー産業の実態を知る。 ・コーヒー農家についての資料を読む。 ☆エルサルバドルの藍染産業の実態を知る。 ・日本とのつながりや歴史に関わる資料を読む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「もっと知りたいと思うこと」を書き出す。 「日本と似ているところ」を書き出す。 コーヒー産業の写真とグラフ 藍染体験の写真
	3時間目	<p>☆アイスブレイク☆ ○エルサルバドルの映画を少し観る。 【エルサルバドルの少し困った社会問題を考える】 ☆エルサルバドルの国にとって問題だと思ふことを写真を観て、書きだす。 ・学校がすべての地域にない ・ギャング団 ・水問題 ・ゴミ問題 等 ・なぜ、問題が起こってしまうのか考える。 ☆このまま問題が続くとどうなるのか考える。 ・平和ではない ・戦争になる ・子どもや弱い立場の人の生活が苦しい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 映画「Sin Nombre」 「日本と違うところ」を書き出す。 「どんな考えも間違いでない」ことを伝える。 ブレインストーミング フォトランゲージ
	4時間目	<p>☆アイスブレイク☆ ○わたしの“幸せ”なときはどんなとき?! を発表する。 【日本とエルサルバドルの幸せを願う】 ☆エルサルバドルで出会った人々のインタビューからエルサルバドルの人々の「幸せリーダーチャート」を作る。 ☆日本にいる自分の「幸せリーダーチャート」を作る。 ☆2つのリーダーチャートを比較して気付くことを発表する。 ☆エルサルバドルの人々の生活を知り、今後自分の生活の中で実践したいことはどんなことか、発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「2つを比較して気付いたこと」を書き出す。 「わたしにできること」を書き出す。 リーダーチャート
成果	エルサルバドルの場所も知らない生徒たちだったが、写真、コーヒーの試飲や民族衣装の試着を行うことで、とても楽しく学ぶことができた。また、特にリーダーチャートは初めて行うことで、「おもしろい！」と言いながら、気付くことをどんどん書くことができた。エルサルバドルと日本の共通点を知ることで、両国が幸せな生活おくるためには何が必要か、生徒一人一人が理想の社会を願って授業に臨むことができた。		
課題	エルサルバドルの産業については、まだまだ視覚的資料(生産額・輸出量等のグラフ)が少ないため、まとめを行うことが難しかった。グラフ資料など、今後も調査をする必要がある。		
備考	毎回の授業には、アイスブレイクを入れることは有効であった。今日は何について「学ぶ」のかを提示することで、生徒の学ぶ意欲が高まった。また、仲間と考える時間が多くあると、発言に自信が持てるので、仲間の意見を聞く時間も十分に取るとよりよい学びになる。		

所属	名古屋市立笹島中学校	実践者	野口 哲平
対象	中学1年生	時間数	5時間（50分×5）
場所	教室	実践教科	社会科
ねらい	アフリカの文化・環境について関心を持ち、特色をとらえる活動を通じて、既知の知識と未知の資料を比較して、同一性や違いに気づくことができるようにする。		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<p>アフリカをながめて</p> <p>①アフリカについての話をする。 →ガーナで撮影してきた写真をみせ、日本と同じ所や違うところがあることに気づかせる。</p> <p>②本時の課題をつかませるため、学習課題を発表する。</p> <p>③課題の進め方を発表する。 →各班に農業・都市・人々の様子についての資料、水性マーカー、青付箋、赤付箋を配布する。</p> <p>(1) 見つける（個人作業） ・同一性は青付箋に書き込み、違いは、赤付箋に書き込み、資料に貼り付ける。</p> <p>(2) 話し合う（班作業） ・自分が見つけた同一性や違いを班員に伝える。</p> <p>(3) 作り上げる（班活動） ・班でまとめた意見を元に、写真切り貼り用用紙A2サイズに、切り取った写真と付箋を貼り付け、発表用に作り上げる。</p> <p>④本時の学習を振り返る。 →次回の発表に向けて、班の意見を整理する。</p>	<p>生徒が意外に感じるものがらや身近に関連しているアフリカの事物について資料を提示して、日本との同一性・違いを見つけさせる。</p> <p>話し合いが進んでいない班には、決め方のアドバイスをする。</p> <p>発表時間は3分ほどなので、限られた時間で何を発表するか、考えて選ぶように指示する。 (時間を制限するのは、効率と公正さを学ぶ下地を作るため。)</p>
	2	<p>同一性・違い発表</p> <p>①各班で、自分たちが見つけたことを発表する。</p>	
	3	アフリカの歩みと多様な民族	3 4 5の授業には、1 2で作った資料を使いながら進める。
	4	伝統的な農業のいま	
	5	<p>モノカルチャー経済と暮らし</p> <p>→③～⑤は、教科書で学ぶ事と、①②の授業で学んだことが、繋がっていることを確認しながら進める。学校の授業を取り組むことも国際理解に繋がっていくことを意識させる。</p>	
成果	アフリカ（ガーナが主）と日本の同一性や違いに気づくことで、本質的なモノが変わらないことに気づけた。		
課題	中学校1年生で、ワークショップ形式の授業は数回しかやっていなかったため、導入部分をわかりやすくする工夫が必要であった。		
備考	学校の職員の授業参観と組み合わせて行ったので、授業後に改善点を他の職員から提案してもらうことができた。		

所属	関ヶ原町立今須中学校	実践者	藤井 健太郎
対象	中学1年生	時間数	7時間
場所	教室、ワークスペース	実践教科	社会科
ねらい	アフリカ州の多くの国々が歴史的な背景のもと第一次産品に依存した輸出を行っており、経済的基盤の脆弱性を理解することができる。また、そこから転換を図ろうとする新たな取組についても理解を深め、日本の支援活動とつながりがあることに気付くことができる。		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<ul style="list-style-type: none"> ◆アフリカ州をながめる ・州内の国や都市、地形を白地図に書き込む。 ・4都市の雨温図を読み取る。(ラバト、カイロ、リーブルビル、ケープタウン) ・貿易統計(輸出)を読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・白地図 ・雨温図 ・貿易統計
	2	<ul style="list-style-type: none"> ◆アフリカ州の歴史的背景 ・資料から調べる。 ・調べたことを交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会科資料集
	3・4	<ul style="list-style-type: none"> ◆アフリカ州の経済的基盤① —世界の中のアフリカ州— ・「新・貿易ゲーム」をする。 ・ゲームを振り返る。 グループ間で利潤の格差が生じた要因について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「新・貿易ゲーム」 開発教育協会 かながわ国際交流財団
	5	<ul style="list-style-type: none"> ◆アフリカ州の経済的基盤② —ガーナのカカオ豆輸出— ・ガーナ共和国の貿易(輸出)について知る。 ・カカオ豆が輸出される経路の写真を並べ替える。 ・カカオ豆の生産過程の写真を並べ替える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・株式会社明治 HP ・ガーナ産カカオ豆 ・ガーナで撮影した写真
	6	<ul style="list-style-type: none"> ◆アフリカ州の産業構造の転換① —具体的な事例から— ・産業構造の転換を図る取組について調べる。 ①マラウイ共和国の一村一品運動(OVOP) ②ガーナ共和国のパイナップル生産 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際協力機構 HP ・ガーナで撮影した写真
	7	<ul style="list-style-type: none"> ◆アフリカ州の産業構造の転換② —私たちからの提案— ・産業構造の転換を図るための提案を考える。 	
	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・教師海外研修での写真や資料、具体的な事例を活用することで、学習意欲が高まった。 ・体験的な活動や調べ学習を位置付けたことで、アフリカ州に対する理解が深まった。 	
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・産業構造の転換を図る具体的な事例を、さらに複数提示できるとよい。 ・生徒が考えた提案を第三者に発信することや、具現化する方途があるとよい。 		
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・第1時において単元の主題を設定する。 ・第2～7時までは、4名程度の小集団を母体とする協同的な学習を基本とする。 ・毎時間の終末には、学習した内容を記述する言語活動を位置付ける。 		

所属	静岡県浜松市立細江中学校	実践者	高井 季代子
対象	中学1年生(201人)	時間数	9時間
場所	教室、体育館	実践教科	総合的な学習の時間
ねらい	他者の多様な考え方や、自分と社会・世界との様々なつながりを知り、自らの価値観を広げることを通して、自己を見つめ直し、自己の生き方を考えることができる。そして、3年生になったときには、目標や夢をもって進路選択をすることができる。		
実践内容	回	プログラム	備考
	1, 2	【JICA出前講座 ラオスでの支援活動を知る】 ◇「派生図」で国際協力という言葉からイメージを広げる。 ◇「質問作り」で次時の講演会に向けて自分なりの視点をもつ。 ○三田氏の生き方やラオスでの支援活動を知る。	・出前講座の事前学習 ・全校対象の講座 講師は元青年海外協力隊 三田景子氏
	3	【多様な考え・価値観に触れる】 ・アイスブレーキング「仲間づくり」。 ◇「世界の常識？！クイズ」を班で考え、答える。 ◇「四つのコーナー」でクラスメイトと自分の考えの相違に気付く。	
	4	【自分と社会・世界とのつながりを知る】 ・アイスブレーキング「好きなチョコレート菓子で自己紹介」。 ◇「○×クイズ」で日本でよく目にする物がアフリカとつながっていることを知る。 ◇チョコレートが口に入るまでにどのような道をたどり、どのような仕事の人が関わっているか、考えを出し合う。 ◇サッカー選手を支える仕事はどんなものがあるか考え、11種類の職業分類を知り、将来就いてみたい職種を考える。	●ガーナのチョコレート、カカオパウダー ・国際理解教育実践資料 P11 参照 ・H27年度版進路の手引き(静岡教育出版社) ・お仕事図鑑
	5	【地域を支える人の仕事に対する考えや生き方を知る】 ・アイスブレーキング「小さいころの夢で自己紹介」。 ◇パイナップルに命を掛けた日本人の半生を紙芝居で知る。 ◇「なりきり自己紹介」で浜松を支える人の職業観や人生観を知る。	●ガーナのパイナップルや農家の写真等 ・前単元「浜松調べ」でのインタビューを利用
	6	【今までの自分を振り返り、今後の生き方を考える】 ◇タイムラインでターニングポイントを分析し、未来予想図を描く。	
	7	【“夢”講話「みんなの夢、わたしの夢」】 ○日本や世界の人の夢を知り、自分自身の将来像を描く。	・講師は本校職員 石田あいり氏 趣味は旅行と「夢集め」
	8, 9	【職業講話「浜松の職業人に学ぶ」】 ○働く人の職業観や人生観、仕事そのものに対する理解を深める。	・8種の職種から選択
	成果	参加型の手法により、主体的かつ協同的に課題に取り組む態度が育った。仲間と共に、楽しみながら自分の生き方について考えることができていた。生徒、教師共に「総合的な学習の時間」への意識や取り組みが能動的になった。進路学習の堅苦しいイメージが変わってきた。	
課題	意図が十分に伝わっておらず、浅い活動で終わってしまったものがあった。今回限りのものにせず、参加型の形態を今後も取り入れながら、職業体験(2年生)、歴史文化学習(3年生)や進路学習全般へと繋げていきたい。同僚の理解と協力が必要である。		
備考	・本校の総合的な学習の時間の大テーマは「夢実現に向けて、他者の生き方に学び、自己の生き方を描く」。1学年のテーマは「支える人の姿に学ぶ」。 ・1年生の各クラスにて、各担任により同じ指導案で実施。		

所属	名古屋市立丸の内中学校	実践者	河村 有紀
対象	中学1年生(33名)	時間数	18時間
場所	体育館, 教室	実践教科	総合的な学習の時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の多様な文化への関心を高め, 理解を深める。 ・多文化共生社会を実現するために, 自分たちにできることを考え, 行動する。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1~6	① 世界の多様な文化を楽しむ <世界の多様な文化を見て・聞いて・感じよう！> ・講師を招きガーナ, インド, メキシコの文化を知る。 <観光大使になって, 自分たちの国をアピールしよう！> ・班ごと(3~4人)で一つの国の魅力を調べ, 模造紙にまとめる。 ・各班5分で発表し, 「いちばん訪れてみたくなった国」を投票する。	名古屋国際センター NIC 市民教室 保護者も投票
	7~8	② 日本と開発途上国とのつながりを考える ・「世界がもし33人の村だったら」を通して世界の現状を知る。 ・「貧困の輪」を通して日本と途上国とのつながりを考える。	「世界がもし100人の村だったら」をアレンジ
	9~14	③ 世界の課題や日本の国際協力を探求する <国際協力に貢献している人と出会おう！> ・元シリア青年海外協力隊員からシリアでの活動内容を聞く。 ・アートマイルの活動を知り, 様々な国際協力を考える。 <世界の課題や日本の国際協力を調べてみよう！> ・班ごと(3~4人)にテーマ(世界の課題か日本の国際協力)を決めて, 調べ学習を進める。 ・校外学習で JICA 中部「なごや地球ひろば」を訪問し, 元タンザニア青年海外協力隊員から現地の様子を聞いたり, 体験プログラムを通して自分たちのテーマを掘り下げたりする。	JICA 中部 国際協力出前講座 JICA 中部 訪問プログラム
	15-18	④ 国際協力を行動に移す <自分たちの学びを発信しよう！> ・これまで調べてきたことを班ごとに発表する。(各班10分) <自分たちができることを行動に移そう！> ・クラスとして取り組める国際協力を話し合い, 行動に移す。 ・全校生徒にも呼びかけ, 国際協力の輪を広げる。	授業参観
成果	様々な背景や経験をもつ講師に直接話を聞き, 系統的に国際理解教育を学習することができたため, 生徒たちは興味・関心を高めることができた。また, 日本, あるいは自分と世界がつながっていることを実感し, 自分にできる国際協力を行動に移すことができた。		
課題	自分たちにできる国際協力が一過性のものになりがちであるため, 今後の授業展開を計画していきたい。次年度以降, 本校の総合学習で継続的に国際理解教育の学習を進めるために, 教材を精選し, より効果的な授業実践を計画していきたい。		
備考	1年生の総合学習では, 今後「高齢者疑似体験」や「車いす体験」などを行う予定。中学校3年間を通して, 多文化共生をテーマに学習を進めていきたい。		

所属	海星中学・高等学校	実践者	吹田沙織
対象	中学2年生	時間数	6時間(45分×4回、100分×1回)
場所	教室	実践教科	技術・家庭(家庭分野)
ねらい	エルサルバドルの現状を知り、エルサルバドルが抱えている課題について理解を深める。また、異国・異文化理解から自国である日本の現状を振り返り、日本も含め世界の課題であることに気づき、課題解決のため、自分たちでもできる活動を考え、実践できるようにする。		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	【先生、途上国へ行ってきました】 ①アイスブレイク <u>世界の国名、何カ国を知っていますか？</u> ②途上国のイメージ…ポップコーン方式により発言 ③エルサルバドルの紹介…現地の様子を写真で紹介 ④途上国のイメージと実際のエルサルバドルの比較	・パワーポイント ・プリント
	2	【エルサルバドルをイメージしよう】 ①アイスブレイク <u>バースデーチェーンでグループ作り</u> ②この写真は何だろう？ …エルサルバドルに関係する写真を見て、何の写真か考え、エルサルバドルがどのような国か想像し、意見を出し合う。 「コーヒー農家」「カエルキャラバン(防災教育)」「小学校」「警官」 ③エルサルバドルの現実を知る …写真の説明を読み、イメージと現実を比較し、事実を知る。	・フォトランゲージ
	3	【エルサルバドルが抱えている問題】 ①エルサルバドルの4つの問題！？ …前回の写真の様子がエルサルバドルの問題だと認識する。 ②原因はなぜ？…関心のある問題を1つ選び、なぜ、そういう状況なのか原因を考える。 ③どうすればいい？…現状を改善するための方法を考える。	プレスト、KJ法
	4	【エルサルバドルだけの問題ではない！？】 ①世界の中で似たような状況が起きている！？ ②めぐり巡って日本にも！！…自分の問題でもあることに気づく ③僕の宣言…自分や世界のために自分ができることを考える。	・プリント
	5	【異文化体験と環境に配慮した調理にチャレンジ！！】 ①伝統料理ププサとエルサルバドル産のコーヒーゼリー作り ②エルサルバドルで活躍する日本人の紹介	・調理実習 ・パワーポイント
成果	エルサルバドルという今までに聞いたことのない国に関心を持てるようになり、世界にも興味を持てるようになった。また、途上国に対するイメージに思い込みや偏見があることを意識でき、事実をきちんと見て、その国の課題に気づくことができた。遠い国の話ではなく、自分の暮らしにもつながりがあることを理解できた。		
課題	1 つずつのプログラムに対し、意見を出すなどの子どもたちの取り組みに時間がかかり、最初に計画していた時数よりも時間を取ることになった。多文化を楽しく学べるゲームなどのアクティビティをもっと工夫して取り入れることで、子どもたちの活発な動きを引き出せると感じた。		
備考			

所属	愛知県立天白高等学校		実践者	林 雄一
対象	中学3年生(34人)		時間数	1時間(65分)
場所	天白高校HR教室 中学生一日体験		実践教科	総合的な学習の時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・世界規模で問題になっている、「貧困問題」を身近に捉える。 ・貧困の原因を考え、一度貧困になると容易に抜け出すことができないことに気付かせる。 ・貧困をなくすため、自分にもできることがあることを知る。 			
実践内容	回	プログラム		備考
	10分	◇アイスブレイク ① 好きな色 ② 好きな季節 ③ バースデーライン(月日でなく、日にちで並ぶ。) →班分け(6グループ)		
	5分	◇何の写真でしょうか?【フォトランゲージ】 ・ラオスで見たウエイストピッカーの女の子の写真を見せる。 グループで相談		・プロジェクター ・パソコン ・昨年度の教師海外研修の写真 OME_1642、OME_1640
	10分	◇資料1(南北問題)、資料2・3(富の偏在化)を読み、貧困問題の現実について学ぶ。		・資料1・2・3
	15分	◇貧困の原因を考える。【因果関係図】→【ギャラリー方式】 		・模造紙 ・12色マーカー
	10分	◇貧困の悪循環について考える。【『貧困の輪』カード】		・『貧困の輪』カード 
	10分	◇「私たちにもできる貧困をなくすための方法」を読む。		
	◇自分たちの手でできることを考える。			
	5分	◇本日の感想を記入する。		・ワークシート
成果	中学生一日体験入学の授業を利用し、中学生向けに実践できたことは良い機会であったと思う。昨年度の様なオリジナリティは無いが、「貧困」のテーマに沿って、比較的オーソドックスな内容の授業をすることができ、良い経験が得られた。また、授業を受講した中学生が、短い時間にもかかわらず、グローバル 이슈に興味を持ってくれたこと、皆一様に楽しそうに授業に参加してくれていたことが良かったと思う。			
課題	今回は、実戦に向けてのまとまった時間数が確保できず、やむを得ず1時間という短い実践となってしまった。あまり多くのことを盛り込めず、駆け足の授業となり、不完全燃焼のうちに終わったのは残念であった。これからも、このような機会を継続的に作り、実践を続けていくことが課題である。			
備考	出典:『国際理解教育実践資料集』P14 JICA地球ひろば発行、i-net 愛知国際交流協会HP			

所属	愛知県立刈谷北高等学校	実践者	岩田 真実
対象	高校1年生	時間数	3時間(100分×1回・50分×1回)
場所	教室	実践教科	総合的な学習の時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・世界や人の多様性に触れ、他者や他国に興味をもつと同時に、日本や自分自身を見つめなおす。 ・違いがあるということは当たり前であり、自分の当たり前が世界の当たり前でないことに気づく。 ・多様な文化や価値観を活かし合える社会が、持続的な社会であると気づく。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<p>「世界はちがいでできている?!」</p> <p>1 <u>アイスブレイキング</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「私は〇〇派」／共通点さがし <p>2 <u>いろいろな国を知ろう!日本を考えよう!</u></p> <ol style="list-style-type: none"> ①グループごとに各地域のクイズを解く。 ②日本を紹介するクイズを作る。 <p>3 <u>自分と周りの人は同じ?!</u></p> <ol style="list-style-type: none"> ①「わたしの当たり前=あなたの当たり前?」を読む。 ②「自分の人生に必要なもの」を付箋紙に10個書き出し、優先順位でピラミッドをつくる。 <p>4 <u>世界で起こっている問題は…</u></p> <ol style="list-style-type: none"> ①違いが認められないとどんな問題が起こってくるのかを派生図で考える。 ②「違いを認めなかった国」の資料を読み、なぜそれが起こってしまったのか改めて考える。 	<p>※第1回は100分、第2回は50分で行った。</p> <p>2 教材1 『MEETS THE WORLD クイズ(愛知県国際交流協会)』</p> <p>3 教材2 『わたしの当たり前はあなたの当たり前?』(同上)</p> <p>4 教材3 『違うものを受け入れなかった人たち』(同上)</p>
3	<p>「カナダから学ぼう、多文化共生社会!」</p> <p>1 <u>アイスブレイキング</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自分のこだわり」「行ってみたい国・理由」 <p>2 <u>多様性が認められると?</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様性を認めると、どのような良い結果がもたらされるのか派生図で考える。 <p>3 <u>カナダから学ぼう!</u></p> <ol style="list-style-type: none"> ①カナダクイズを解く。 ②カナダの資料を読み、多文化共生社会に向けての国としての取り組みを知る。 <p>4 <u>多文化共生社会を実現するには?</u></p> <ol style="list-style-type: none"> ①多文化共生社会を実現するために、必要なものは何かを考える。 ②そのために自分たちができる三箇条をつくり発表する。 	<p>3 教材4 『カナダの多文化主義』(同上)</p> <p>3 教材5 カナダで自分が撮った写真</p>	
成果	<p>日本とは全く異なる文化や世界の状況を知り、「もっと知りたい」という意欲が芽生えたと答える生徒が多くいた。また、「自分や日本のことを改めて考えるきっかけになった。」という感想や、「どんな違いも受け入れられ、より豊かな世界にしていくために、今の自分からできることをしたい。」などの感想が得られた。</p>		
課題	<p>時間に追われてしまった部分があったため、より生徒の思考に沿った効果的なアクティビティを精選し、適切な時間配分で活動させる必要がある。そして、「体験」、「ふりかえり」後の「共有」をさらに深めていきたい。</p>		
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・実施クラスには国際理解コースの生徒もいる。 ・本校はカナダの高校と姉妹校提携を結んでいる。 		

所属	愛知県立一色高等学校	実践者	鈴木 理恵
対象	高校1年生30人	時間数	3時間(50分×3)
場所	教室	実践教科	コミュニケーション英語Ⅰ
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・エルサルバドルという国や人々に肯定的に出会い、違いや日本との繋がりに気づく。 ・エルサルバドルが抱える問題を知り、その解決のために携わっている日本人について知る。 ・エルサルバドルで働く日本人の言葉から自分の人生に役立つことを考える。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<p>～エルサルバドルと肯定的に出会い問題点に気づく～</p> <p>①アイスブレイキング エルサルバドルの簡単な紹介を聞いて感想を一言</p> <p>②エルサルバドルクイズ エルサルバドル4択クイズ</p> <p>③エルサルバドルの紹介 写真で文化、生活、日本との繋がりを紹介</p> <p>④エルサルバドル現状カード 学校・環境についての現状リスト(写真付き)を読み、何が問題か予想し班で書き出す→全体で発表し共有</p>	世界地図、中米の地図 エルサルバドルの写真 エルサルバドルクイズ 現状カード 模造紙、ペン
	2	<p>～エルサルバドルが抱える問題と活躍する日本人を知る～</p> <p>①日本とエルサルバドルの繋がり 今年は友好80周年になることを紹介</p> <p>②エルサルバドルでの青年海外協力隊の活動紹介(教育・環境教育) 青年海外協力隊員の取り組みを紹介</p> <p>③今自分の人生で大切にしているもの5つ 各自リストを作成→ポップコーン方式で全体共有</p> <p>④エルサルバドルで活躍する日本人からのメッセージ 「日本の子供たちへ」 青年海外協力隊、JICA 所長のメッセージをビデオで紹介</p>	友好80周年の切手 PPT 資料 A4 用紙、付箋 模造紙、ペン
	2, 3	<p>→活躍している日本人が大切にしている、大切だと思っていること *付箋に書き出し、模造紙にKJ法でグループごとにまとめる</p> <p>3</p> <p>～エルサルバドルから考える「私達の人生に役立てたいこと5カ条」～</p> <p>①「私達の人生に役立てたいこと5カ条」をグループで作成</p> <p>②全体で発表</p> <p>③感想、振り返り</p>	模造紙、ペン アンケート用紙
成果	生徒は未知の国エルサルバドルを身近な存在に感じる事ができた。青年海外協力隊の方のメッセージは非常に良い刺激となっていた。世界を知り、外から日本を見ることの大切さに気づき、日本の生活や自分の人生を考え直す機会になった。回が進むごとに参加型の授業形態にも慣れ、グループで協力し共に考える前向きな態度が見られた。		
課題	海外の写真、ものを紹介するだけでは、生徒はその国を自分ごととして考えることが難しいと感じた。日本との関わり、自分の生活と比較しながら考えることが有効だと感じた。エルサルバドルの産業、文化も紹介する時間が十分確保できると更に魅力を伝えることができたと思う。		
備考	2回目の授業はALTの先生も参加してもらったが、彼にも興味を持ってもらえたと思う。		

所属	三重県立稲生高等学校	実践者	寺本 圭衣
対象	高校1年生(3組普通科、6組情報科)	時間数	5時間
場所	教室、机椅子のない教室	実践教科	英語
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の状況について、体感しながら知る。 ・世界の格差や貧困について体感しながら知り、問題点や解決策を自分たちで考える。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<p>○世界の国、州、洋とそのイメージ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4人1組になり、世界地図に40の国、6つの州、3つの洋を書き込む。1組から1人ずつ前に出て答えを黒板に書いていき、答え合わせをする。 ・それぞれの州のイメージを自由に書き込み、グループ間で回す。 ・共感した所、疑問に思ったところに印をつけ、意見を共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界地図(白地図)
	2	<p>○世界について知ろう！体感しよう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「世界のクイズ」を1人で解き、世界について考えてみる。 (①世界の人口、②男女の比率、③世界と日本の子供・大人・お年寄りの割合、④非識字率、⑤アジアの人口、⑥最も話されている言語) ・役割カードを1人1枚配り、役割に応じてグループにわかれ、体感しながら答え合わせを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界のクイズプリント (「ワークショップ版世界がもし100人の村だったら(第4版)」より抜粋したもの) ・役割カード (上記冊子より)
	3	<p>○大陸の人口と所得の不公平について知ろう！体感しよう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役割カードに従ってひもで囲いながら大陸ごとに分かれ、⑤の答え合わせを体感しながら行う。健康状態の違いにも分かれる。 ・所得の配分の不公平について、オレンジジュースを配り体感する。 ・なぜこのような不公平が起こるのか、どうすれば格差がなくなるか、それぞれのグループで何ができるかを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大陸の比率に合わせた麻ひも6本 ・役割カード ・オレンジジュース ・プラスチックコップ
	4	<p>○子供の貧困の問題点、解決策について考えよう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループに分かれ、ストリートチルドレンを例にとり、子供の貧困について考える。子供の貧困を中心に、「～とどうなる？」で派生図を描く。ペアで考えた後、グループで共有する。いろいろな問題が別々であるわけではなく、問題同士がつながっていくのを体感する。 ・一番深刻な問題を1つ選び、先進国としてどう支援できるかをペア、グループで考え図にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・模造紙 ・色ペン10色セット ・A4用紙
	5	<p>○自分にできることは？「世界がもし100人の村だったら」を読もう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国としてではなく、自分でもできることを自分で考えてみる。 ・「100人の村だったら」を1人ずつ区切りながら読み、文章を完成させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・上記冊子のp6-7の文章より数を穴埋めしたもの ・本文を40に分割したカード
成果	<p>今まであまり興味が薄かった世界の状況を、体感することで実感をもって問題として認識できるようになった。また、そうなるかどうか？という流れをグループで考えることができ、では解決するにはどうすればよいかいろんな人と考えようとする姿勢が見られた。</p>		
課題	<p>ざっくりと基本的なことしかできなかったの、個別でいろいろな問題を掘り下げるには時間が足りなかった。また個々でじっくり考え、共有し、自分で気づくところまでもっていくには予想外に時間が必要であることがわかった。今後引き続き時間を見つけ世界の問題について考えさせたい。</p>		
備考	<p>参考文献『ワークショップ版世界がもし100人の村だったら』DEAR 開発教育協会</p>		

所属	星城高等学校	実践者	長江 孝継
対象	高校1年生	時間数	6時間
場所	教室	実践教科	ESD活動
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 世界の貧困の状況や原因、つながりを幅広く学ぶ。 世界の貧困を解消するために、私達にできることを考え提案をしていく。 参加型授業と探究活動を通して、地球の抱える問題を解決しようとする意識を育てる。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	1. 日本と外国のイメージ (1)日本・アメリカ・フィリピン・パキスタンをイメージする。 (2)先進国(イメージ:多) 発展途上国(イメージ:少) (3)先進国の課題と発展途上国の課題について話し合う。 (4)今回学んだことや情報を共有してまとめる。	ブレーンストーミング B紙 ポスカ 世界地図 
	2	2. 世界で共通する課題について考える (1)前回の参加者の感想や意見を共有する。 (2)課題から共通点を探す → 貧困が原因で起こる問題が多い (3)貧困と豊かさについて考える。	対比表 B紙 ポスカ 貧困をはかる指標 (日本ユニセフ協会 HP)
	3	3. AHI(アジア保健研修所)35周年イベント参加報告 (1)「バングラデシュの研修報告」で学んだことを報告する。 <ul style="list-style-type: none"> 基本情報(人口・産業・歴史・識字率など) ガールズクラブ(女性の人権と教育、早婚など) 障害を持った子ども達について。 	世界地図
	4	4. 身近なものから貧困を学ぶ(食) (1)DVD「ありあまるごちそう」を見る。 (2)写真「世界の食卓」を見る。 (3)食を通して見る経済格差。	DVD 「ありあまるごちそう」 写真 「世界の食卓」
	5	5. 貧困をテーマに調べ学習をする (1)自分で調べてきたものを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> モルディブの現状と貧困問題 ・児童労働 ・臓器移植と売買 カンボジアの法律 ・テロと武器と貧困 ・アフリカの損失 イスラム教の女性 	
	6	6. 自分達に今できることを考える (1)どんな支援活動が行われているのかを調べる。 (2)フィリピンの教会に物資支援を行う。	100×200×100(cm)のダンボール2箱に物資を詰めている様子
成果	<ul style="list-style-type: none"> 参加型学習を通して、生徒同士が世界の諸問題について意見を出し合うことができた。また、言葉は知っているが内容はあまり知らないことに生徒自身が気づき、興味を持つようになった。 探究活動では、貧困問題と自分の進路目標につなげてテーマを設定することができた。 生徒達が1つの問題についていろいろな角度から物事を見ようとする姿勢が備わってきた。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> 今後貧困解決のために何ができるか、生徒に具体的に提案をさせていきたい。そのためにどんな支援活動が実際に行われているのかを紹介していきたい。 ファシリテーターとして、アクティビティと問いかけの組み合わせをよく考えることが必要。意見の集約や時間配分を工夫して、円滑に展開できるようにしたい。 		
備考	実践内容は継続中です。これからより具体的に内容を深め、考え行動に移していきたい。		

所属	大同大学大同高等学校	実践者	市江 文奈
対象	高校1、2年生(語学研修参加者)	時間数	3時間
場所	教室	実践教科	語学研修事後指導
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ● 異文化について、実体験を通して、理解を深める。 ● 食料自給率について学び、世界と日本の「食」の繋がりについて知る。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	0	【オーストラリア短期語学研修への参加】 3週間オーストラリアで過ごし、日本とは異なる環境・文化・人々に触れ、体験する。	
	1	【語学研修を振り返って】 ・語学研修に参加して、印象に残っている出来事や事柄を、それぞれが付箋紙に書きだす。 ・それぞれが書いたものを出し合う。 ・KJ法を用いて、出し合ったものをカテゴリー別に分け、タイトルをつける。	付箋紙、ペン 模造紙
	2	【『食』について考えてみよう】 ・『世界の食卓』より、日本とオーストラリアの1週間で食べる食料とその家族の写真を見て、グループごとに、同じところ／違うところを見つける。 ・「日本の食は〇〇」「オーストラリアの食は〇〇」と一言フレーズにまとめる。	『地球の食卓』 模造紙
	3	【『食料自給率』について考えてみよう】 ・資料を見て、食料自給率について学ぶ。 ・読んだ資料がどんな内容か、それぞれの担当箇所をまとめてグループ内で発表する。 ・自給率が低いとどういったことが起こるのか、因果関係図を用いて考える。 【自分にもできることは？】 「日本の食料自給率を上げるために私たちができること」を、グループごとに3カ条でまとめ、発表する。	農林水産省パンフレット『知ってる？日本の食料事情』 模造紙 模造紙
成果	オーストラリア短期語学研修参加者を対象としたこともあり、世界と日本の繋がりについてさらに関心が高まり、「食」に関する問題を身近に感じ、とらえることができた。また、「参加型学習」の手法を用いたことで、生徒が積極的に考え、協力しながら意見を出し合った姿に、成長を感じた。		
課題	対象者を限定したために、1カ国のみに焦点を絞って行ったため、もっと広く、グローバルな視点から、多角的に「食」について考えさせることができなかった。また、食糧自給率だけではなく、他の問題を取り上げ、もっと深く考えさせる機会を作る必要があった。		
備考			

所属	愛知県立半田高等学校	実践者	樋口 耕平
対象	高校2年生	時間数	2時間(50分×2)
場所	教室	実践教科	英語
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・エルサルバドルという国に肯定的に出会う。 ・エルサルバドル人の夢を知ることで、自分たちの未来を前向きに考える。 ・発展途上国に関する知識と理解を深める。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<p>【エルサルバドルと肯定的に出会う】</p> <p>① アイスブレイキング 自己紹介:5歳の時の夢は～でした！ 高校を卒業したら～に挑戦したいです！</p> <p>② 先生が出会ったエルサルバドルはこんなところでした！ 教師海外研修で見てきたこと、出会った人々についてパワーポイントで紹介</p> <p>③ エルサルバドル人のたいせつなもの・将来の夢って何だと思う？ グループで自由に話し合い、エルサルバドル人の解答を予想し、全体で共有する。</p> <p>④ わたしのたいせつなもの・将来の夢 自分のたいせつなもの・将来の夢をワークシートに書き出し、思いを再確認することで、次回のアクティビティにつなげる。</p>	<p>パワーポイント 模造紙 ペン ワークシート</p>
	2	<p>【エルサルバドル人の思い、自分たちの思い】</p> <p>① アイスブレイキング なりきり自己紹介:私はエルサルバドル人なんです！</p> <p>② エルサルバドル人の思い、自分たちの思い 現地でインタビューした「たいせつなもの・将来の夢」と、前時で生徒が書いた同じ質問の結果を両方発表し、比較する。</p> <p>③ エルサルバドル人の思いを知って、感じたこと グループで自由に話し合い、全体で共有する。</p> <p>④ 夢をかなえるために必要なこと、できること グループで話し合い、紙にアイデアを書き出し、各グループで導き出した「提言」を全体で発表</p> <p>⑤ エルサルバドルで活躍する日本人 エルサルバドルのために日々がんばる日本人のメッセージを紹介</p> <p>⑥ 全体アンケート</p>	<p>パワーポイント 模造紙 ペン 映像 ワークシート</p>
成果	エルサルバドル人の「たいせつなもの・将来の夢」と、自分たちのそれらを比較したことで、生徒たちは新鮮な驚きを感じていた。日本では平和で安全な生活ができることをはじめ、「当たり前前の方が当たり前前」にできることへの「ありがたさ」を改めて実感したという生徒が多かった。		
課題	2時間という非常に限られた間での授業だった。もっと時間が確保できていれば、生徒たちはさらに深い考察ができていたと思う。		
備考	文系クラスで実施したため、海外の文化や事情に興味関心のある生徒は少なくない。そのおかげもあり、終始明るく前向きな雰囲気での授業を進めることができた。		

所属	愛知県立常滑高等学校	実践者	榊原 麻起子
対象	高校2年生	時間数	3時間(50分×3)
場所	教室	実践教科	コミュニケーション英語Ⅱ
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 教科書で読んだオラウータンの他にも、絶滅の危機にある動物が他にもあることを知る。 自分たちの生活の仕方が、動物や人間、地球に生きるものすべてに影響を与えていることに気づく。 地球上で生きているものとして、地球の未来について考える。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<p>～ 絶滅の危機種の動物について知る ～</p> <p>① アイスプレーキング(4人グループで) 他己紹介(“色に例えたら・・・”、“動物に例えたら・・・”、“行きたい国は?”)</p> <p>② 絶滅危機種の動物について書かれた記事を英語で読む 一つの動物についてグループで読み、内容を確認 その後、グループから一人ずつが新しいグループを作り、最初のグループで読んだ動物についての状況を説明する。</p> <p>③ 1つの動物を選び、その動物になったつもりで人間の友達に自分の置かれている状況、自分たちを救うためにどうしてもらいたいかなどについて、英語で手紙を書く。(宿題で終わらせる)</p>	<p>A4 用紙、ペン</p> <p>A4 用紙 資料 写真 ワークシート</p>
	2	<p>～ 私たちの生活がどんな影響を与えているの? ～</p> <p>① 前回のふりかえり及び書いてきた手紙を回し読み</p> <p>② 私たちが今の生活を続けていたらどうなるのか? 派生図で考える</p> <p>③ ギャラリー方式でシェア</p>	模造紙、ペン
	3	<p>～ みんなの地球の未来のために・・・ ～</p> <p>① リオ環境サミットでのセヴァン・スズキのスピーチを視聴 感想をシェア</p> <p>② 友達が書いた絶滅危機種の動物の手紙に対して、人間としての返事を書く (スピーチの内容を踏まえて、自分が環境のためにできることを盛り込んで書くように指示)</p> <p>③ 手紙と返事を回し読み。</p> <p>④ ふりかえり 感想をシェア</p>	映像 ワークシート
成果	自分たちが普段何気なく生活の中でしていること、人間の身勝手な行動が、地球の環境や他の遠くの場所で暮らしている人間や動物に対して、大きな問題を引き起こしているということに気づく機会にすることができた。英語の授業の中での活動であったために内容に深みを出すのが難しい部分もあったが、いろいろな語彙・表現を英語で知ることができ、生徒は一生懸命取り組んでいた。		
課題	連続して、実施できるとよかったが、3時間に分けて実施したので、流れが途切れてしまった。英語の授業で読んだ題材をもとに、その他の動物についても置かれている状況を知る活動を行ったが、もう少し時間をかけて、その原因となる人間の活動についてもっと自分たちで調べ、考える活動ができるとよかったと思う。		
備考	担当している国際理解コースの授業で実施した。日頃から、英語の学習と絡めて、世界が直面している課題について知ることができるような活動を行っているが、(フィリピンとのスカイプ交流、いろいろな国について調べ、プレゼンテーション、映画を見てディスカッションなど)それぞれの活動が点ではなく、線になるように計画したい。		

所属	愛知県立南陽高等学校	実践者	佐久間綾花
対象	高校2年生(総合探究系列17人)	時間数	10時間
場所	プレゼンテーションルーム、PC室、校外	実践教科	総合探究入門
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが普段食べている物が、国際的に関わっていることを知る。 ・自分の意見を出す自主性と、他人の意見を尊重する姿勢を養う。 ・自分が国際問題について考え、行動する姿勢を養う。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1・2	「突撃！！世界の食卓！！」 ①アイスブレーキング:昨日食べた晩ご飯を各自紹介 ②『地球の食卓』の中から6枚の写真を選び、それぞれの写真に写っているものを付箋に書き出して、貼る。 ③国当てクイズをする。 ④自分の班の担当国のデータを見て、気づいたことをA4紙に書く。 ⑤各班の写真を見て、気づいたことを付箋に書き、貼って回る。 ⑥全ての班のデータや写真を見ながら、気づいたことを全員で共有。	『写真で学ぼう！地球の食卓学習プラン10』(DEAR、2010年)
	3	「突撃！！我が家の晩ご飯in南ジャス！！」 ①イオン南陽店で、事前に書いてきた晩ご飯メニューの材料の原産国を調べる。	イオン南陽店に校外学習
	4	「突撃！！中国の食生活！！」 ①愛知大学現代中国語学部の阿部准教授に「中国の食生活」について講演していただく。	高大連携事業の一環、4月当初に依頼済
	5	「突撃！！総探メンバーの晩ご飯！！」 ①3・4限目のふりかえりをワークシートで行う。	
	6	「突撃！！日本の食糧事情！！」 ①班対抗戦で、日本の食糧自給率クイズを行う。 ②班対抗戦で、フランスの食糧自給率クイズを行う。	「愛知県国際交流協会」より「国際理解教育教材」(web)参照
	7	「突撃！！日本の食糧事情2！！」 ①班対抗戦で、日本の輸入トップ10クイズを行う。 ②食糧自給率に関する資料を読み、気づいた所にマーカーを引く。	
	8	「突撃！！食糧自給率事情！！」 ①模造紙に、「もしも食糧の輸入がなくなったら」という派生図を作る。 ②他グループの模造紙を見て、「確かに」と思う所に☆をつける。	
	9	「突撃！！フードマイレージ！！」 ①フードマイレージ・プロジェクトのサイトを見ながら、フードマイレージについて学ぶ。	「フードマイレージ・プロジェクト」(web)参照
	10	「突撃！！みんなの立場！！」 ①各班でロールプレイをし、気づいたことを話し合う。	
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・食糧自給率を身近に感じ、世界の問題を自分達のものに落とし込んで考えることができた。 ・今まで話したことのない相手とも話せるようになった生徒が多かった。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の能力や実情に合わせて行くと、目標よりもかなり丁寧に行わなければならなくなる。 ・各時の内容以外の連絡等に時間を費やしてしまうこともあるため、まとめまで進まない。 ・この単元を通して、どれほど関心が強まったかを評価する手段が希薄である。 		
備考			

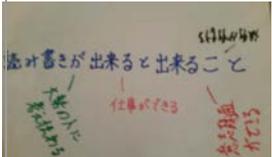
所属	愛知県立瑞陵高等学校	実践者	田中 真弘
対象	高校2年生(定時制)	時間数	28時間
場所	教室	実践教科	コミュニケーション英語Ⅱ
ねらい	1. 発展途上国「エルサルバドル」と先進国「日本」の仕事や生活のバランスを考え、どうすればお互いに豊かに生活できるかを自分たちの目線で探してみる。		
実践内容	回	プログラム	備考
	1-3	ブレインストーミング 「発展途上国」という言葉から何が思い浮かぶか想像してみる。 「エルサルバドル」という国をイメージしてみる。	答えは様々で1人1人を肯定する。(多様性)
	4-6	あるものないもの 対比表を使ってエルサルバドルにのみあるもの、日本にのみあるもの、両方にあるものを想像してみる。	
	7-9	データで知る エルサルバドルのことを地理、経済、貧困、治安の悪さなどの観点から知っていく。	
	10-15	エルサルバドルの授業体験 エルサルバドルの教科書を使って英語の授業を体験してみる。 ①“Language used to order food”「料理を注文するときの言葉」 ②“Tipping”「チップの習慣と仕方」	
	16-21	③“Identifying Appropriate Expressions to Make, Accept, and Refuse Invitations”「承諾したり断ったりするときの適切な表現」 ④“Interview for a Job”「仕事のための面接」	
	22-28	ワーク・ライフ・バランスについて考える エルサルバドルと日本を比較して、仕事と仕事以外の生活のバランスの必要性を探る。	
成果	エルサルバドルのことを知ること、国際理解教育に興味を持つこと、自分たちの暮らしにどう関わってくるのかということを考える有意義な時間が取れた。		
課題	発展途上国が遠い存在から身近に感じられる存在に変わってきてはいるものの、まだまだ想像上のものであり、自分たちが何か行動を起こすというところまでは至らなかった。		
備考	生活する中で必要なものの子どもの価値観が大人と違っていたのは興味深かった。		

所属	岐阜県立華陽フロンティア高校	実践者	高田 信英
対象	高校3年生	時間数	4時間(50分×4)
場所	教室	実践教科	地理A
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・アフリカを多角的に考察し、そこから世界が抱えている諸問題を知る。 ・アクティビティを通し諸問題の原因と解決についてグループで考え、をまとめることができる。 ・グローバルの意義を理解して、身近なところから行動する意欲を身に付ける。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<p>○ アフリカの人々の暮らし</p> <p>①アフリカのイメージは？ グループで模造紙に派生図を書き込む。</p> <p>②日本とのつながり 日本人に馴染みのある品物が描かれた用紙からアフリカに関連するものを選ぶ。 つながりを確認した後にグループで産地の場所をもとに分布地図をつくる。そして気づいたことを話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・派生図 ・資料 『国際理解教育実践資料集』 ・マッピング
	2、3	<p>○ アフリカの子ども</p> <p>①写真からわかる子どもの生活 各グループにアフリカの子どもが写っている写真を配り、気づいたことと困っていることを推測して書き出す。</p> <p>②データから見るアフリカの現状 識字率、貧困率、エイズの感染率、児童労働率をグラフで示して読み取る。</p> <p>③教育が受けられないことで起こる問題 イラストからどんな問題が起きるかグループで話し合い書き出す。</p> <p>④貧困の連鎖 学校に行けないことがどのようにつながっていくか、カードの循環を完成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・フォトランゲージ ・資料 『絶対貧困』石井康太 『日本と世界の水事情』開発教育協会 『国際理解教育実践資料集』 ・キャプション ・カードの並び替え
	4	<p>○ ミレニアム開発目標からできること</p> <p>①ミレニアム開発目標とその成果 ミレニアム開発の内容を知り、成果を2015年報告で読み取る。</p> <p>②コラムの読み取り グループでアフリカの問題について記されたコラムを読み、内容をまとめて他のグループで発表する。</p> <p>③ランキング ミレニアム開発目標の項目の中で、私たちが優先してできることをランキングした後にグループ内で発表しあう。</p> <p>④ふりかえりシート</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料 『ぼくは8歳、エイズで死んでいくぼくの話』青木美由紀 『絶対貧困』石井康太 ・ダイヤモンドランキング
	成果	<p>・1年の授業計画の中で、単元に沿った自然な流れで行うことができ、評価につなげることができた。生徒は興味や関心を持ち、積極的に発言するだけでなく、グループの中で分担して作業を行う姿を見ることができた。</p>	
課題	<p>・本校の生徒の多くが中学時代に不登校を経験したこともあり、グループ学習自体が困難な場合が多く、その配慮に苦心した。本校が今年度から重視しているソーシャルスキルトレーニングを段階的に踏まえた授業を今後考えていきたい。</p>		
備考	<p>・考査においては、自分の意見を書くことや、資料からどのように情勢を読み取るかといったことを出題し評価した。</p>		

所属	静岡県立御殿場特別支援学校	実践者	山口 貴史
対象	小学部5年(知的障害課程)14名	時間数	24時間
場所	教室、体育館	実践教科	生活単元学習(学習発表会を含む)
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ガーナと自分たちの同じところ、違うところを、いろいろな視点を見つけることができる。 ・体験を通して、いろいろなことに興味関心をもち、自分と同じ・違うことを受容していくことができる。 ・自分たち(日本)の遊びを通して、日本の伝統的な遊びや文化を体験することができる。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1-3	「ガーナ人ってどんな人？」 <ul style="list-style-type: none"> ・ガーナ人(変装した教員)を見たり、話をしたりして、いろいろな視点で自分たちとの違いを見つける。 Ex. 言葉、飲料水、国旗、服装、食事、頭の上の荷物、髪の毛、など ・あいさつをしたり、頭の上に荷物を乗せたりして、実際に体験する。 	<準備物> 現地で収集したもの(服、飲料水の袋など) ※1人の教員はガーナ人になりきって登場する。
	4-7	「ガーナの服をつくろう」 <ul style="list-style-type: none"> ・ガーナの服の柄や模様、素材の違いを見て感じる。 ・ミシンや針と糸を使って、自分のガーナの服を作る。 	不織布の服、ガーナの柄の布、ミシン、針、糸
	8-9	「ガーナの楽器をつくろう」 <ul style="list-style-type: none"> ・ガーナの楽器を見たり、音を出したりする。 ・ひょうたんと小豆を使って、楽器を作る。 ・できた楽器を使って、楽曲(世界中の子どもたちが)に合わせて音を出す。 	現地で収集した楽器、ひょうたん、小豆
	10-11	「ガーナのご飯(フフ)をつくろう」 <ul style="list-style-type: none"> ・イモ(キャッサバ)とバナナ(プランテン)を使って作ることを知る。 ・木の棒と臼で、イモとバナナをつぶす体験をする。 ・フフと一緒に食べるオクラスープを見る。 	現地で収集したフフの粉、イモ、調理用バナナ、木の棒、臼、オクラスープ
	12-20	「ガーナのことを紹介しよう」 <ul style="list-style-type: none"> ・ガーナ人(変装した教員)に自分で作った服や楽器に見せたり、模型を使ってご飯作りを紹介したりする。 ・たくさんの人にガーナのことを紹介する(学習発表会)。 “あいさつ、服装、荷物運び、ご飯作り、楽器作り、楽器作り・演奏” 	作った服・楽器、臼や木の棒の模型、現地で購入した音楽CD など
	21-24	「正月(日本)の遊びをしよう」 <ul style="list-style-type: none"> ・書初め、凧揚げ、こま回し、竹とんぼ、けん玉を体験する。 	正月遊びの道具
成果	初めて見て、感じるガーナに興味関心を抱き、多様な視点をもって授業に参加することができていた。ガーナと日本との違いを受容することが難しかった児童も、体験を通して、受容することができた。最後に、全員がガーナを好きになっている様子が見られたことは大きな成果である。		
課題	児童の興味関心を重視し、柔軟な授業展開にすることで、児童のいきいきとした姿を見ることができた。今後は、多様な視点をもつことと同時に、自分たち(日本)の文化への視点にも着目し、来年度の修学旅行につながるようにしていきたい。		
備考	生活単元学習のため、教科・領域を合わせた授業展開となっている。また、授業期間は、9月～1月の4ヶ月間とした。ガーナのことを継続して体験的に学習することで、ガーナを身近に感じ、ねらいを達成することができるようにした。		

所属	愛知県立名古屋特別支援学校	実践者	伊藤 篤志
対象	児童・生徒、教員、PTA(保護者)	時間数	7時間
場所	各教室、多目的室、会議室など	実践教科	全校朝会、教員研修、PTA 役員会
ねらい	エルサルバドルという国を通じて、「豊かかって何だろう?」「幸せってなんだろう?」など日本で当たり前になっていることの振り返りをする。 「学校があるってありがたい」と再確認し、教育の大切さを知る。		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	貧困とは何? 学校・教育の大切さ(負の連鎖を利用) 「教員研修」 初任者研修、5年経験者研修、10年経験者研修の講義を利用して参加型の学習形態を使って、開発途上国の現状(負の連鎖)を考える研修を実施した。ブレインストーミングを使い知っていることを書き出し、負の連鎖カードを並べてエルサルバドルの現状を知ってもらった。	<準備物> 模造紙、マジック パワーポイント 負の連鎖カード、 中米・エルサルバドルの基礎情報プリント
	2	学校があるってありがたい・教育の大切さ 「PTA(保護者)研修」 PTA 役員会を利用して役員会後にブレインストーミングを使って「中米・エルサルバドル」について知っていることを書き出し、その後現状のエルサルバドルをパワーポイントで紹介した。	コーヒー・耐震・ゴミ問題・治安について情報プリント <手法> ブレインストーミング
	3	授業「エルサルバドルはどこ?」 (1) 中学部(中学校)での授業 パワーポイントを使って世界の国々の中の「エルサルバドル」の紹介をした。日本とエルサルバドルの違いを考えた。	<準備物> エルサルボックス パワーポイント
	4	(2) 高等部(高校)での授業 パワーポイントを使って世界の国々の中の「エルサルバドル」の紹介をした。日本とエルサルバドルの違いを考えた。	エルサルバドル地図
	5	「全校朝会」 10月の全校朝会(小・中・高)でエルサルバドルの紹介をする。	献立表
	6	「学校給食」 10月の給食献立に「エルサルバドルの日」を一日設けた。	レシピ
	7	「授業」 「ピニャータであそぼう」 (1) 重複障害学級での授業 エルサルバドルの民族衣装を着て記念撮影をし、ピニャータを使って中米の文化に触れた遊びをした。 「PTA(保護者)通信」 PTA だよりにエルサルバドル紀行を寄稿した。	パワーポイント 音楽・ビデオ ピニャータ 保護者への配布
成果	帰国後、管理職という立場で授業を考えた時に実際に子供たちに向かう授業が無かった。しかし、エルサルバドルに行ったことを聞きつけた教員からの要請で児童・生徒に授業を行う時間をもらうことができた。管理職という立場で教員に対する研修で、学校の意義や大切さを考える機会が作れた。		
課題	肢体不自由特別支援学校に通学する児童生徒は、教科の学習が可能な児童生徒から重度重複障害で寝たきりの児童生徒まで幅広く在籍する。重度重複障害の児童生徒の授業を工夫するのが難しかった。		
備考	管理職(授業を受け持っていない)としての立場で何ができるか? 今回の経験をどんな方法で? 誰に? 還元ができるか? 考える機会になった。		

所属	トライデントスポーツ医療看護専門学校	実践者	酒井文子
対象	専門学校生 40人	時間数	6時間(90分×4コマ)
場所	教室	実践教科	国際看護学
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・貧困と健康障害がどのように関連しているのかについて知る、気づく。 ・参加型プログラムを通して、他者の意見にふれ価値観の多様性を理解し、それを尊重する。 ・グローバルな視点から人々の健康を考え、国際看護の基礎的な知識と態度を学ぶ。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	導入【世界で起きていること、あなたならどうする?!】 ①グループ分け:トランプを使って4人×10グループに分ける。 ②アクティビティ:「ガチャトーク(アレンジ版)」5つのテーマ ¹⁾ について、「はい」か「いいえ」、またそれはなぜかについてグループで意見交換→全体共有 ③ミニレクチャー:5つのテーマに沿って、貧困と健康障害がどのように関連しているのかについて補足説明。	1)5つのテーマ ①乞食とお恵み ②ラクの物語 ③女性器切除 ④村人の生水 ⑤上流の鬼
	2	展開①【実際に、世界で起きていることを疑似体験しよう!】 ①グループ分け:6人×6グループ、4人×1グループの計7グループになるように事前に明示し、あえて好きな子同士、仲のよい子同士で集まってもらう。 ②アクティビティ:「貿易ゲーム(アレンジ版)」 展開②【どうして貧困はなくなるの?】 ①リフレクションシートの記入(個人ワーク)→意見交換→全体共有 ②ミニレクチャー:貿易ゲームのふりかえりを通して、貧困のメカニズム、貧困と健康障害との関連について再度補足説明。	必要物品 トランプ、レジュメ、パソコン、プロジェクター <ガチャトーク> ビニール袋、ガチャ玉、テーマの紙、模造紙、付箋、マーカー <貿易ゲーム> 封筒、はさみ、のり、コンパス、鉛筆、色鉛筆(赤・黄・緑)、A4用紙、ルール説明の紙、紙幣、リフレクションシート <バファバファ> 模造紙、マグネット、紙コップ、ジュース、マーカー、住民名簿 <水の交換> 透明コップ、スポイト、薬品2種(フェノールフタレイン液、水酸化マグネシウム)、トレイ、バケツ
	3	展開③【異文化理解を助けるもの・妨げるものとは?】 ①アクティビティ:「異文化体験ゲーム(アレンジ版バファバファ)」学籍番号の偶数・奇数で2グループ(α国・β国)に分ける。 ②ミッションに沿って各国を訪問し合い、各々に調査報告書を作成。 ③全体で調査報告書の報告会。各々の文化の紹介。 ④リフレクションシートの記入(個人ワーク)→意見交換→全体共有	
	4	展開④【実際に、国際看護師はどんな活動をしているの?】 ①青年海外協力隊OV(看護師隊員)としての活動報告 ②アクティビティ:「水の交換(アレンジ版)」を通して、ヘルスプロモーション活動の実際を体験してみる。 まとめ【1人の日本人としてできること、1人の看護師としてできること】 ①1人の日本人としてできること、1人の看護師としてできること、について1人1つずつ書き出す。 ②グループで意見交換→全体共有→まとめ	
成果	学生のリフレクションシートや成果物には、教員の「ねらい」を超える「気づき」が表出されていた。成人学習者であっても、参加型手法を組み入れることで「気づき」が生まれ、そこから「価値観の変容」→「行動の変容」へつなげていくことが可能である、と感じられた。		
課題	4コマすべてにアクティビティを組みこんだため、忙しかった。アクティビティにかけられる時間も、そのふりかえりの時間も十分にとれたとは言えず、学生の感情や意識を十分に揺さぶりきれなかったのでは。教員が、つい「ねらい」の方向へ学生を誘導してしまうこともあり、ファシリテーション能力の向上も課題。		
備考	参考文献 1-②自画持参プロジェクト http://jigajisan.net/byo.html 2-②『協力隊体験を伝えよう2—生きる力を育てるワークショップ集—』社団法人青年海外協力協会 4-②『楽しく学ぶ エイズ教育者のための ワorkshopマニュアル』シェア=国際保健協力市民の会		

所属	愛知淑徳大学コミュニティ・コラボレーション・センター	実践者	望月 智加
対象	大学1年生～4年生	時間数	90分
場所	愛知淑徳大学 教室	実践教科	国際理解教育ワークショップ
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・発展途上国の子どもたちの教育の現状を知る、繋がりを知る、できることを知る。 ・教育を受けられないことで起こる問題を考え、その他の問題が広がっていくことを理解する。 ・参加型の学びを通して、参加者の気づきを引き出す。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1回	<p>【アイスブレイク】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲間探し・仲間こわし(出身・学部・関心のあるテーマ) ・グループ分け→自己紹介(学部・ニックネーム・小学生の時に好きだった教科) <p>【アクティビティ① 文字が読めないことを体験しよう！】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タイ語で書かれた求人誌から給料が高いものを探そう ・薬を探そう(毒・熱さまし・栄養剤の中から) →グループで選んでもらい、全体で答え合わせ <p>【アクティビティ② 教育って必要なのかな？】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読み書きができると出来ること」をブレインストーミングで書き出す →各グループで出た意見を全体で共有 ・「教育を受けられないことで起こる問題」をポストイットに書き出し、グループで模造紙に張る。問題を整理し、分類する。 →全体で共有(なるほど！と思ったものに☆マーク、補足説明？マークをつける) <p>【アクティビティ③ 教育を阻害する貧困を断ち切ろう】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貧困の悪循環カードの「学校にいけない」を起点に、その問題から順々に派生する問題のカードを繋げる ・負の連鎖の状況を見て、どうすれば貧困から抜け出し、教育が受けられるか話し合う <p>【アクティビティ④ チョコレートが届くまで。自分にできることって何？】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チョコレートが届くまでのサプライチェーンを考える ・教材「役割カード」を配布し、1人1枚役割になりきってセリフを読む ・課題解決に必要なことと課題解決を阻害する要因を考え、模造紙に書き出す(時間の都合上、各グループ担当を決めて書き出す) ・自分にできることをグループで話し合い、全体で共有 	<p>配った飴のパッケージの種類をもとにグループ分け</p> <ul style="list-style-type: none"> ・求人誌3枚 ・薬ラベル3つ   <ul style="list-style-type: none"> ・貧困の悪循環カード  <ul style="list-style-type: none"> ・特定非営利活動法人 ACE『ワーク教材「チョコっと世界をのぞいてみよう！』』
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・座学だけではなく、ワークをすることで途上国の問題を自分事として感じてもらうことができた。 ・じっくり考え、意見交換をすることで、新しい発見を見つけてもらうことができた。 ・現状を知る、繋がりを知る、できることを知る、の3本柱を達成することができた。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・考えてもらう時間や全体で共有する時間、アクティビティを多く用いたため、90分で収まりきらなかった。内容を盛り込み過ぎたため、取捨選択が必要だった。 ・参加者にとって派生図の作成など初めての活動が多く、わかりやすい指示が必要だった。 		
備考			

所属	名古屋市立山吹小学校	実践者	服部 秀子
対象	一般(教員、保護者、大学生など)	時間数	2時間(1回 120分)
場所	Tane Cafe (瀬戸市)	実践教科	教育論
ねらい	<p>・教師、保護者、学生など多様な立場の人達が様々な価値観に触れながら、これからの教育について共に考え、対話する機会をつくる。</p> <p>・子どもの幸福度の世界一のオランダで発展したイエナプラン教育を知り、これからの教育に大切なことは何かを考え、理想の学校を創るための必要な要素に気付く。</p>		
実践内容	分	プログラム	備考
	10分	1. 自己紹介 【アイスブレイク】 ① 名前 ② 普段していること(職業名を出さず) ③ 本講座に参加した理由	
	20分	2. イエナプラン教育はビジョン 【グループシェア】「20の原則(ビジョン)」を読んで、共感できたところをグループで発表・共有し、多様な教育観を知る。	資料「20の原則」 DVD「明日の学校に向かつて」
	40分	3. ビジョンの具現化(HOW&WHY) 「異年齢学級」「ブロックアワー(自立学習)」「ワールドオリエンテーション(総合的・協働学習)」などの手法や、それに取り組む理由を知る。	パワーポイント イエナプラン校の写真 や動画
	20分	4. 「これからの教育に大切なこと」を考えよう 【KJ法】 ① 個人で付箋に書き出す。「教育→社会」と「社会→教育」の二つの視点があることを知り、自分がどちらの視点で見ているのかを確認しながら考える。 ② 個人で書いた付箋を模造紙に貼りながらグループで共有して、付箋をカテゴリ分けしていく。	模造紙 付箋
	10分	5. 多様な考えを知る【ギャラリー方式】 KJ法でできた模造紙をグループ間で回し、いいなと思ったものには「☆」を、説明が聞きたいものには「？」を付箋に書く。 ?がついた付箋を書いた人に、説明をしてもらう。	
20分	6. 理想の学校を創る5ヶ条をつくろう【Oヶ条づくり】 これからの教育に大切なことを踏まえ、理想の学校を創るために必要な要素をまとめる。		
成果	年齢や職業が幅広い参加者を対象にできたことは非常に良かった。今ある教育の当たり前を見つめ直し、新しい視点で考えるためのきっかけ作りとして、イエナプラン教育は最適なツールだったと思う。		
課題	時間が足りず、考えを深めたり、対話したりすることが十分にできなかったことが残念だった。また気付きから行動へ転換していくアクティビティを入れるとさらに良いものになったと感じた。		
備考			

所属	環境教育ネクストステップ研究会	実践者	寺田 卓二
対象	一般市民(エコパートナー)	時間数	2時間
場所	四日市公害と環境未来館	講座名	平成27年度四日市公害と環境未来館 委託事業
ねらい	H27年3月に開館した四日市公害と環境未来館が募集したエコパートナーについて、どのようなくみがあれば市と協働して持続可能なまち・四日市を作っていけるのか。協働の在り方についてワークショップ形式で考える。		
実践内容	時間	プログラム	備考
	10分	1、開催趣旨説明 市民によるWSであること。市と協働するしくみを考えること。	PPTで説明
	10分	2、アイスブレイキングと班作り ①参加者リサーチ ②名刺で自己紹介	・参加者に安心感を持たせる。班分けにも活用
	10分	3、自分たちにやれること、やりたいこと(プレストと整理) 付箋紙に書き出し、説明しながら模造紙の左半分に並べる。並べたものを、班で大まかに分類(KJ法)する。	・A4用紙、マーカー ・付箋紙、マーカー、模造紙(半分に折る) 使い方を説明
	10分	4、やりたいことの実現に必要なこと 大まかに分類したやりたいことの実現に必要なこと(課題)を、テーマごとに、班で考え右半分に書いていく。	
	20分 (2分)	5、こんな協働ができれば実現する 協働について説明 課題は、協働で解決できるか。できるならどんな協働ができればいいか。班で考え、書き足す。できたものを他の班に回して、見てもらう。 ・回ってきた模造紙を見て、良いと思う協働に☆印をつける。わからないものには？をつける。	
	10分 20分	6、協働を進めるために、エコパートナーにほしいしくみ 5の協働を作り出すには、エコパートナーにどんなしくみが必要かを考え話しあう。 ①すぐにできる、②1, 2年できる、③5年くらいかかるに分類しリスト化する	休憩10分 休憩中、各班の模造紙を見て回る。 ・半切模造紙
	20分	7、発表 何を実現するために、どんな協働ができるのか、そのためのしくみづくりにはどんなことが必要と考えたのか各班で考えたことを発表	
10分	8、振り返りとこれからのこと	アンケートの依頼	
成果	参加者が十分思いを話し合えた。横のつながりや今後の展望が持てたなどの気づきがあった。協働によって自分たちの活動を発展させることができると多くの参加者が考えた。今後協働取組みを進める事務局や話し合いの場づくりが必要との声が多く出た。		
課題	協働の広がり、世界とのつながりにも気づかせる必要がある。 今回の結果を放置しない、市へ伝え、次回の話合いの場を作れるよう提案する。		
備考	年度内に提案予定		



2015年度 開発教育指導者研修（実践編） 受講者 実践報告シート集

発行 2016年2月
発行者 独立行政法人国際協力機構 中部国際センター（JICA中部）
〒453-0872 名古屋市中村区平池町4丁目60-7
Tel : 052-533-0220（代表）
<http://www.jica.go.jp/chubu/>
